平成30（2018）年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

調 査 報 告 書（概 要 版）

平成30（2018）年10月

栃　木　県

目　次

Ⅰ　調査の概要 …… 1

Ⅱ　調査の結果 …… 2

１　暮らしの変化について
（１）暮らしの変化 …… 2
（１－１）暮らしが悪くなった理由 …… 3
（２）暮らしの満足度 …… 4
（３）今後の暮らしの状況 …… 5
（４）今後の暮らしで力を入れる点 …… 6

２　県政への要望について
（１）県政への要望 …… 7

３　日常生活について
（１）文化・芸術活動について …… 10
（２）スポーツ活動について …… 11
（３）住んでいる地域について …… 12
（４）社会貢献活動について …… 13

４　栃木県への愛着と誇りについて
（１）栃木県に対する愛着 …… 14
（１－１）栃木県に愛着を感じる理由 …… 15
（１－２）栃木県に愛着を感じない理由 …… 16
（２）「ＶＥＲＹ　ＧＯＯＤ　ＬＯＣＡＬ　とちぎ」の認知度 …… 17

５　第77回国民体育大会開催について
（１）２０２２年に国体を栃木県で開催することの認知度 …… 18
（２）栃木県で開催する国体を周知するために効果的な広報手段 …… 19
（３）栃木県で開催する国体に参加・協力できる方法 …… 20

６　地域防災について
（１）災害に対する備え …… 21
（２）防災訓練の参加状況 …… 22
（２－１）参加したことがある防災訓練 …… 23
（２－２）防災訓練に参加したことがない理由・今後参加したいと思わない理由 …… 24

７　青少年の健全育成について
（１）「家庭の日」「とちぎの子ども育成憲章」の認知度 …… 25
（２）青少年が利用する携帯電話等にフィルタリング機能を設定することについて …… 26
（２－１）フィルタリング機能の利用率を向上させるための取組 …… 27

８　男女平等意識について
（１）社会全体の中での男女の地位の平等感 …… 28
（２）働く場での男女の地位の平等感 …… 29
（３）男女平等な社会を推進していくための県の取組 …… 30

９　とちぎの元気な森づくり県民税について
（１）重要と考える森林の働き …… 31
（２）「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの …… 32
（３）とちぎの森林を元気な姿で次世代に引き継ぐためにできる取組・したい取組 …… 33

10　障害者差別の解消について
（１）障害のある方が障害のない方と同じように生活していくための環境づくり …… 34
（２）障害のある方が障害のない方と同じように生活していくための事業者の負担 …… 35
（３）「共生社会」を実現するための県の取組 …… 36

11　食の安全・安心について
（１）食品の安全性に対する不安 …… 37
（１－１）食品の安全性について不安に思うもの …… 38
（２）県から発信してほしい食の安全・安心に関する情報 …… 39

12　食品ロスの削減について
（１）食品ロスの問題の認知度 …… 40
（２）食品ロスを発生させないために現在取り組んでいること …… 41
（３）食品ロスを発生させないために今後新たに取り組みたいこと …… 42

13　食に関する意識と実践について
（１）食事の際「いただきます」を言っているか …… 43
（２）農業体験をした経験 …… 44

14　栃木県の景観づくりについて
（１）身近な景観の変化 …… 45
（２）景観を損ねていると思うもの …… 46
（３）景観を良くするために取り組むべき主体 …… 47
（４）景観づくりを進めていくための行政の取組 …… 48

15　犯罪と治安対策について
（１）県内の治安状況 …… 49
（２）不安を感じる犯罪 …… 50
（３）交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動 …… 51
（４）交通事故を抑止するための対策 …… 52

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

２　調査項目

（１）暮らしの変化について＊
（２）県政への要望について＊
（３）日常生活について＊
（４）栃木県への愛着と誇りについて
（５）第77回国民体育大会開催について※
（６）地域防災について
（７）青少年の健全育成について
（８）男女平等意識について
（９）とちぎの元気な森づくり県民税について
（10）障害者差別の解消について※
（11）食の安全・安心について
（12）食品ロスの削減について※
（13）食に関する意識と実践について
（14）栃木県の景観づくりについて
（15）犯罪と治安対策について

（＊印は時系列調査、※印は新規調査）

３　調査設計

（１）調査地域　　栃木県全域
（２）調査対象　　満18歳以上の男女個人
（３）標 本 数　　2,000
（４）抽出方法　　層化二段無作為抽出法
（５）調査方法　　郵送法（郵送配布－郵送回収）
（６）調査時期　　平成30（2018）年５月21日～６月12日

４　調査機関

株式会社エスピー研

５　回収結果

回収数（率）　1,268（63.4％）

６　報告書の見方

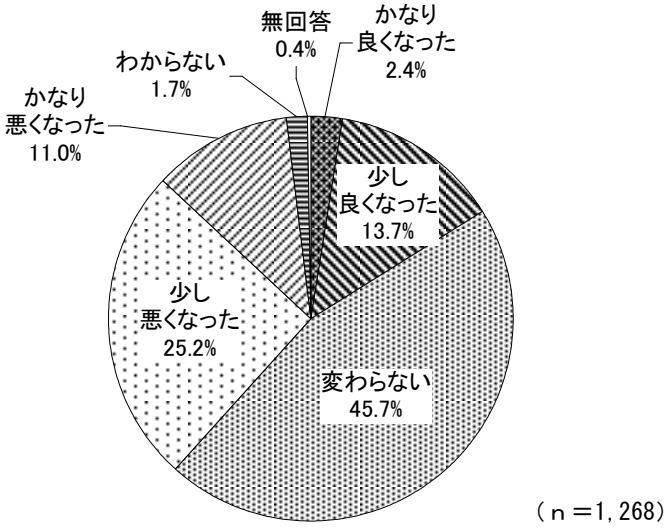
（１）各調査項目について、全体、性別、性／年齢別及び過去の調査結果との比較（一部項目のみ）を掲載した。
（２）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0％にならないことがある。
（３）基数となるべき実数はｎとして掲載した。その比率は件数を100％として算出した。
（４）１人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100％を上回ることがある。
（５）図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
（６）性／年齢別の分析の説明では、男性18～19歳の回答者は９人、女性18～19歳の回答者は10人と少ないため、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、一律にふれていない。

Ⅱ　調査の結果

１　暮らしの変化について

（１）暮らしの変化

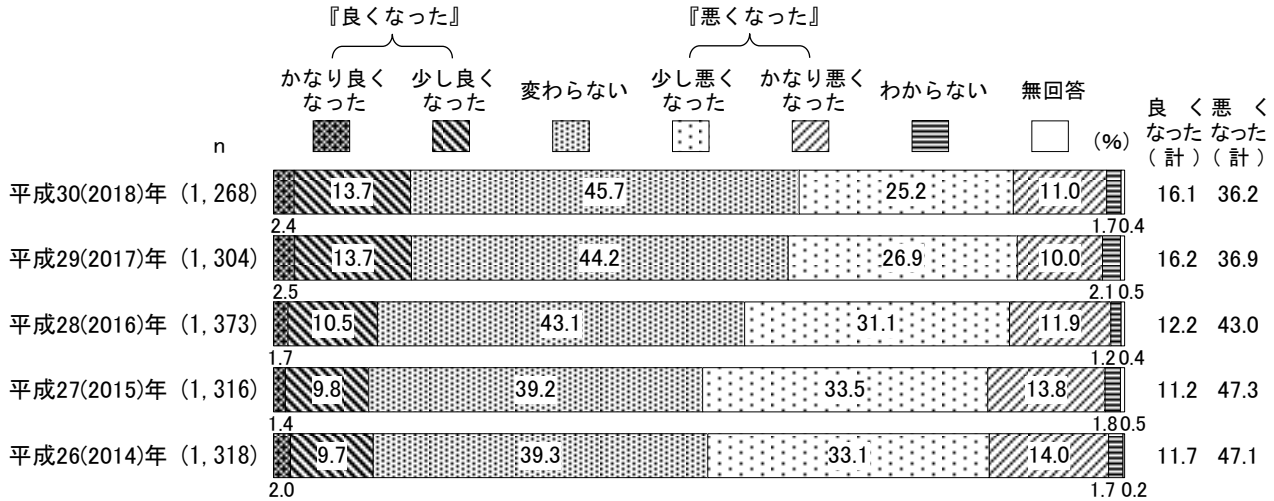
問１　あなたの暮らしは、この５～６年の間にどう変わりましたか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「かなり良くなった」（2.4%）と「少し良くなった」（13.7%）の２つを合わせた『良くなった』（16.1%）は１割半ばとなっている。一方、「少し悪くなった」（25.2%）と「かなり悪くなった」（11.0%）の２つを合わせた『悪くなった』（36.2%）は３割半ばとなっている。また、「変わらない」（45.7%）は４割半ばとなっている。

・性別でみると、『悪くなった』では〈女性〉（37.3%）が〈男性〉（35.1%）より2.2ポイント高くなっている。

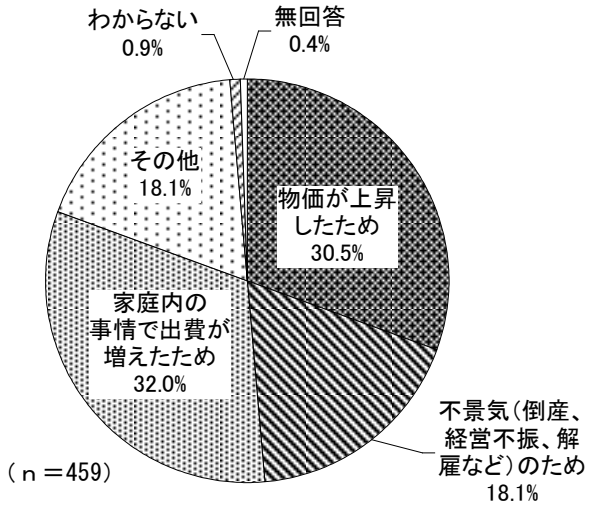
・性／年齢別でみると、『良くなった』では〈男性20歳代〉が37.5%、〈男性30歳代〉が33.4%、〈女性20歳代〉が31.1%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性60～64歳〉が52.9%、〈男性65～69歳〉が52.1%、〈女性65～69歳〉が47.4%と高くなっている。



・過去の調査結果と比較すると、平成29（2017）年とほぼ同じ傾向になっているが、平成28（2016）年と比較すると、『良くなった』が3.9ポイント増加し、『悪くなった』が6.8ポイント減少している。

（１－１）暮らしが悪くなった理由

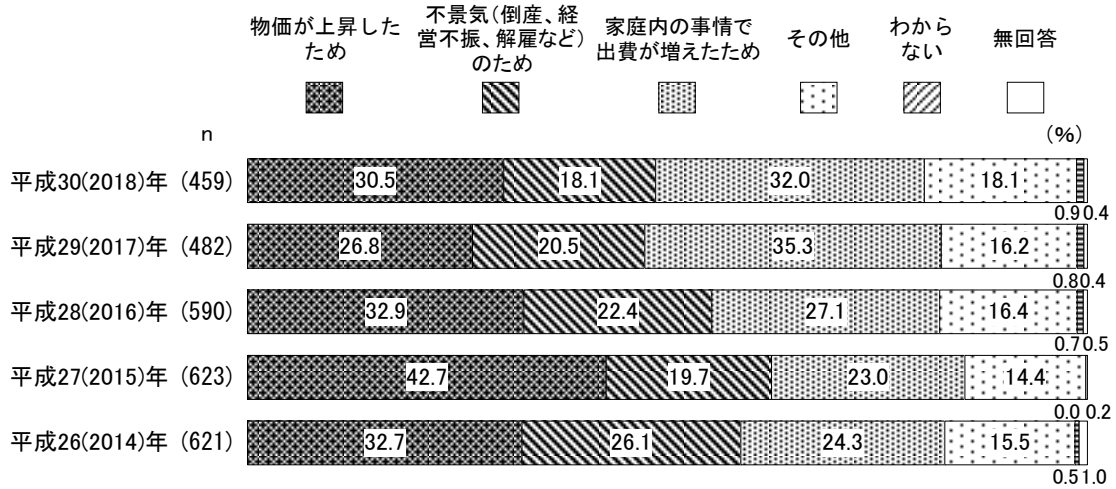
（問１で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください）
問１－１　悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を１つ選んでください。　［ｎ＝459］



・全体でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」（32.0%）が３割を超えて最も高く、次いで「物価が上昇したため」（30.5%）、「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」（18.1%）の順となっている。

・性別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉（37.1%）が〈男性〉（26.0%）より11.1ポイント高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性〉（34.1%）が〈女性〉（27.8%）より6.3ポイント高くなっている。

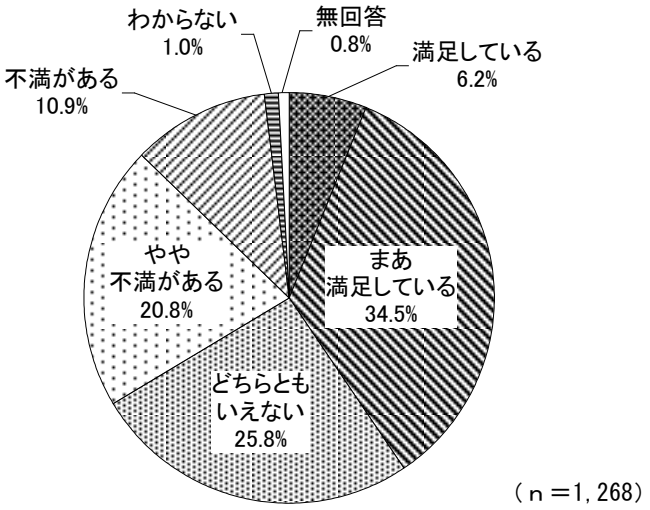
・性／年齢別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性30歳代〉が69.6%、〈女性40歳代〉が66.7%と高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉が47.1%、〈女性70歳以上〉が39.7%、〈女性65～69歳〉が39.3%と高くなっている。「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」では〈男性30歳代〉が57.1%と高くなっている。



・過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が平成29（2017）年より3.7ポイント増加している。一方、「家庭内の事情で出費が増えたため」が平成29（2017）年より3.3ポイント減少している。

（２）暮らしの満足度

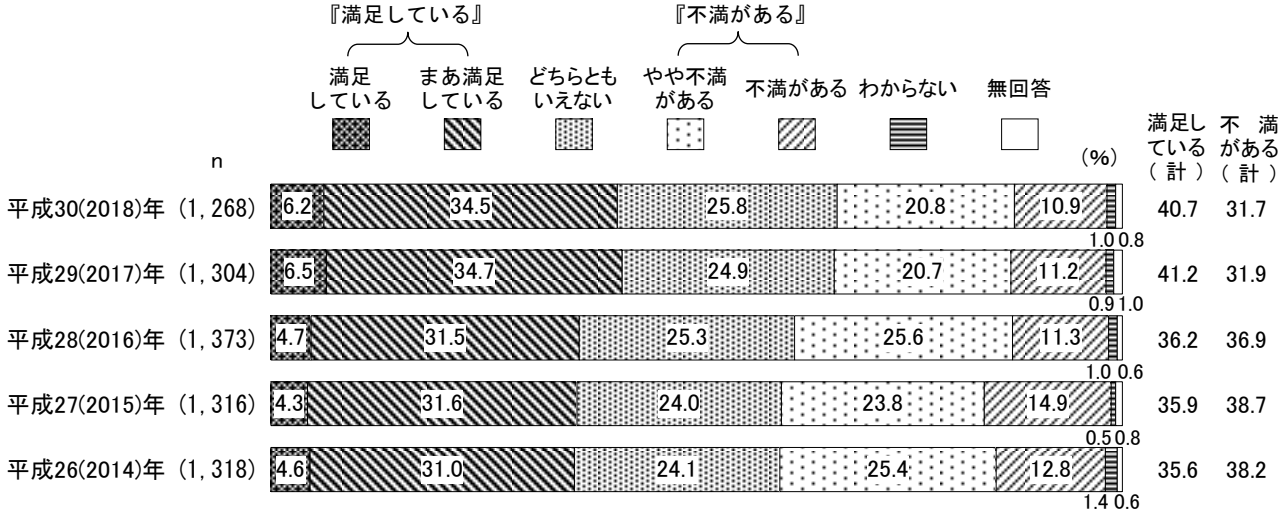
問２　あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「満足している」（6.2%）と「まあ満足している」（34.5%）の２つを合わせた『満足している』（40.7%）はほぼ４割となっている。一方、「やや不満がある」（20.8%）と「不満がある」（10.9%）の２つを合わせた『不満がある』（31.7%）は３割を超えている。また、「どちらともいえない」（25.8%）は２割半ばとなっている。

・性別でみると、『満足している』では〈女性〉（42.3%）が〈男性〉（39.2%）より3.1ポイント高くなっている。

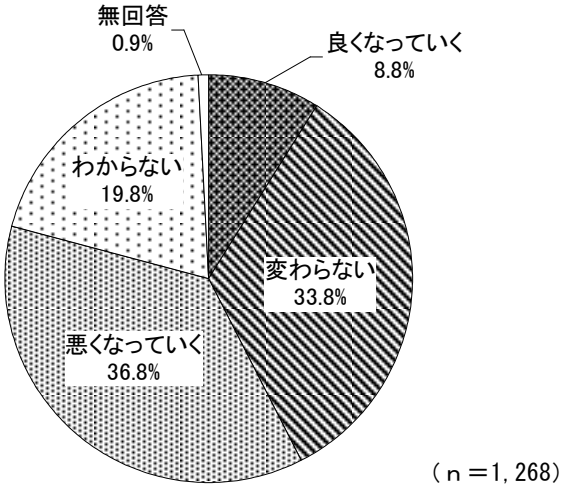
・性／年齢別でみると、『満足している』では〈女性30歳代〉が57.5%、〈男性20歳代〉が53.2%、〈女性20歳代〉が51.2%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性65～69歳〉が46.5%と高くなっている。



・過去の調査結果と比較すると、平成29（2017）年とほぼ同じ傾向になっているが、平成28（2016）年と比較すると、『満足している』が4.5ポイント増加し、『不満がある』が5.2ポイント減少している。

（３）今後の暮らしの状況

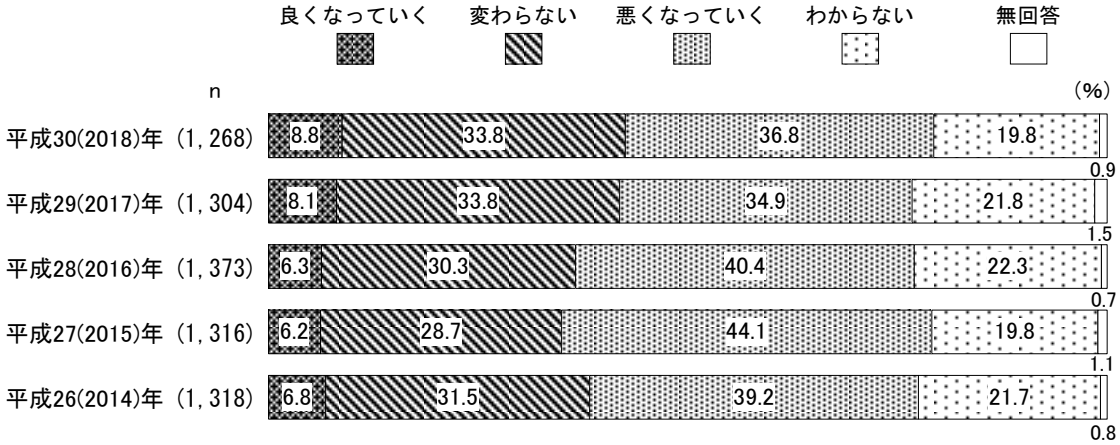
問３　あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「良くなっていく」（8.8%）は１割近くとなっている。「変わらない」（33.8%）は３割を超えており、「悪くなっていく」（36.8%）は４割近くとなっている。

・性別でみると、「悪くなっていく」では〈男性〉（40.0%）が〈女性〉（34.0%）より6.0ポイント高くなっている。

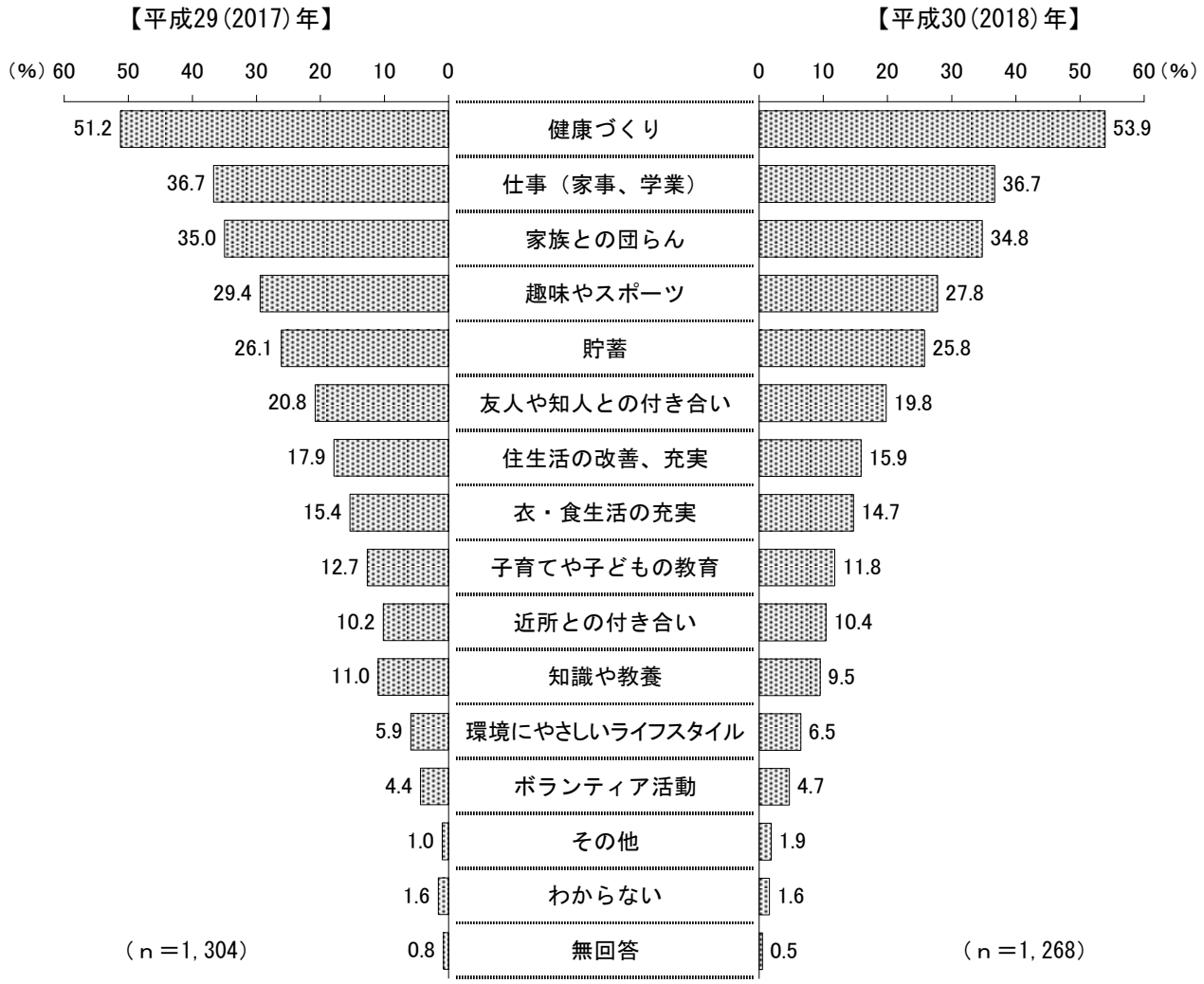
・性／年齢別でみると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が28.9%、〈男性20歳代〉が28.1%、〈女性30歳代〉が22.5%と高くなっている。「変わらない」では〈女性60～64歳〉が44.3%、〈男性20歳代〉が43.8%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性65～69歳〉が53.5%、〈女性65～69歳〉が50.8%と高くなっている。



・過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」が平成29（2017）年より1.9ポイント増加している。

（４）今後の暮らしで力を入れる点

問４　あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から３つまで選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「健康づくり」(53.9%) が５割を超えて最も高く、次いで「仕事 (家事、学業)」(36.7%)、「家族との団らん」(34.8%)、「趣味やスポーツ」(27.8%)、「貯蓄」(25.8%) の順となっている。

・性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(34.8%) が〈女性〉(20.9%) より13.9ポイント高くなっている。「貯蓄」では〈女性〉(31.7%) が〈男性〉(19.3%) より12.4ポイント高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性〉(14.5%) が〈男性〉(9.1%) より5.4ポイント高くなっている。

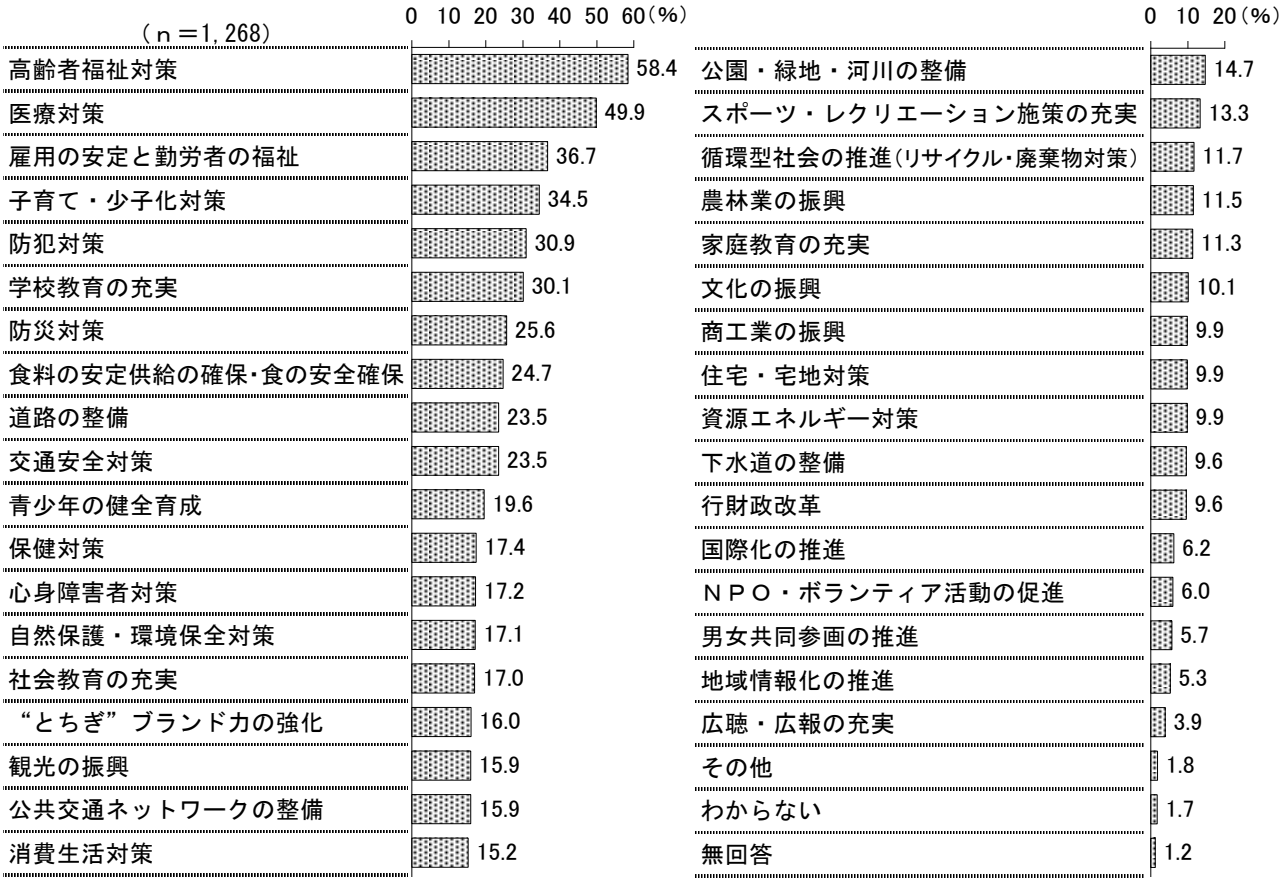
・性／年齢別でみると、「健康づくり」では〈女性65～69歳〉が79.7%、〈女性70歳以上〉が74.4%、〈男性70歳以上〉が74.1%と高くなっている。「仕事（家事、学業)」では〈女性20歳代〉が71.1%、〈男性20歳代〉が68.8%、〈男性30歳代〉が65.3%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性20歳代〉が50.0%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性40歳代〉が50.9%、〈女性20歳代〉が48.9%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が57.5%、〈男性30歳代〉が31.9%と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、「健康づくり」が2.7ポイント増加している。一方、「住生活の改善、充実」が2.0ポイント減少している。

２　県政への要望について

（１）県政への要望

問５　県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な“とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「高齢者福祉対策」（58.4％）が６割近くで最も高く、次いで「医療対策」（49.9％）、「雇用の安定と勤労者の福祉」（36.7％）、「子育て・少子化対策」（34.5％）、「防犯対策」（30.9％）、「学校教育の充実」（30.1％）、「防災対策」（25.6％）、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」（24.7％）の順となっている。

・性別でみると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉（29.1％）が〈男性〉（20.1％）より9.0ポイント高くなっている。「医療対策」では〈女性〉（53.7％）が〈男性〉（45.6％）より8.1ポイント高くなっている。「防犯対策」では〈女性〉（34.8％）が〈男性〉（26.9％）より7.9ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「高齢者福祉対策」では〈女性65～69歳〉が72.9％、〈女性70歳以上〉が72.1％、〈男性70歳以上〉が71.4％と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性50歳代〉が55.2％、〈男性20歳代〉が53.1％と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈女性30歳代〉が70.0％と高くなっている。「防犯対策」では〈女性30歳代〉が50.0％と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が55.0％と高くなっている。

［過去の調査結果－年齢別］

（上位５項目）

年齢	順位／年	１　位	２　位	３　位	４　位	５　位
全体	平成30(2018)年（ｎ＝1,268）	高齢者福祉対策 58.4%	医療対策 49.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.7%	子育て・少子化対策 34.5%	防犯対策 30.9%
	平成29(2017)年（ｎ＝1,304）	高齢者福祉対策 58.8%	医療対策 50.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.0%	子育て・少子化対策の充実(※) 34.1%	学校教育の充実 31.1%
	平成28(2016)年（ｎ＝1,373）	高齢者福祉対策 60.6%	医療対策 50.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 40.9%	子育て・少子化対策の充実(※) 38.7%	防犯対策 34.2%
	平成27(2015)年（ｎ＝1,316）	高齢者福祉対策 59.7%	医療対策 50.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	消費生活の安定(※) 38.5%	子育て・少子化対策の充実(※) 36.9%
	平成26(2014)年（ｎ＝1,318）	高齢者福祉対策 57.6%	医療対策 51.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 45.4%	消費生活の安定(※) 38.0%	子育て・少子化対策の充実(※) 35.8%
20～39歳	平成30(2018)年（ｎ＝229）	子育て・少子化対策 53.3%	医療対策 48.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.7%	学校教育の充実 37.6%	高齢者福祉対策 37.1%
	平成29(2017)年（ｎ＝253）	子育て・少子化対策の充実(※) 56.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 49.8%	医療対策 46.6%	学校教育の充実 41.1%	高齢者福祉対策/防犯対策 34.8%
	平成28(2016)年（ｎ＝249）	子育て・少子化対策の充実(※) 58.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.2%	医療対策 45.0%	学校教育の充実 43.8%	防犯対策 36.9%
	平成27(2015)年（ｎ＝259）	子育て・少子化対策の充実(※) 54.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 49.8%	医療対策 45.6%	学校教育の充実 36.7%	消費生活の安定(※) 36.3%
	平成26(2014)年（ｎ＝249）	雇用の安定と勤労者の福祉 53.4%	子育て・少子化対策の充実(※) 48.2%	医療対策 47.8%	学校教育の充実 40.2%	消費生活の安定(※) 36.5%
40～59歳	平成30(2018)年（ｎ＝411）	高齢者福祉対策 57.2%	医療対策 51.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.4%	子育て・少子化対策 34.3%	学校教育の充実 33.3%
	平成29(2017)年（ｎ＝389）	高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 55.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.7%	学校教育の充実 36.5%	子育て・少子化対策の充実(※) 35.2%
	平成28(2016)年（ｎ＝436）	高齢者福祉対策 57.3%	医療対策 51.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 50.5%	子育て・少子化対策の充実(※) 39.7%	防犯対策 36.2%
	平成27(2015)年（ｎ＝425）	医療対策 53.6%	高齢者福祉対策 53.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.2%	子育て・少子化対策の充実(※) 37.9%	消費生活の安定(※) 36.2%
	平成26(2014)年（ｎ＝434）	高齢者福祉対策 53.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 53.2%	医療対策 50.7%	消費生活の安定(※) 38.9%	子育て・少子化対策の充実(※) 35.9%
60～69歳	平成30(2018)年（ｎ＝267）	高齢者福祉対策 64.0%	医療対策 50.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 33.3%	子育て・少子化対策 31.8%	防犯対策 29.2%
	平成29(2017)年（ｎ＝301）	高齢者福祉対策 65.1%	医療対策 48.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 34.9%	子育て・少子化対策の充実(※) 30.9%	食料の安定供給の確保・食の安全確保/防災対策 29.6%
	平成28(2016)年（ｎ＝331）	高齢者福祉対策 69.8%	医療対策 51.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.3%	子育て・少子化対策の充実(※) 36.9%	防災対策 36.6%
	平成27(2015)年（ｎ＝325）	高齢者福祉対策 67.7%	医療対策 49.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.4%	消費生活の安定(※) 38.8%	子育て・少子化対策の充実(※)/食料の安定供給の確保・食の安全確保35.4%
	平成26(2014)年（ｎ＝317）	高齢者福祉対策 66.9%	医療対策 53.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 38.2%	消費生活の安定(※) 37.5%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 33.1%
70歳以上	平成30(2018)年（ｎ＝320）	高齢者福祉対策 71.9%	医療対策 49.1%	防犯対策 30.0%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 27.2%	学校教育の充実/青少年の健全育成 25.3%
	平成29(2017)年（ｎ＝323）	高齢者福祉対策 78.0%	医療対策 51.7%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 32.5%	交通安全対策 31.0%	防犯対策 27.9%
	平成28(2016)年（ｎ＝333）	高齢者福祉対策 75.7%	医療対策 52.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 35.7%	防犯対策 31.8%	防災対策 30.3%
	平成27(2015)年（ｎ＝273）	高齢者福祉対策 82.8%	医療対策 52.7%	消費生活の安定(※) 44.0%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 39.6%	防犯対策 32.2%
	平成26(2014)年（ｎ＝269）	高齢者福祉対策 74.3%	医療対策 56.1%	消費生活の安定(※) 39.8%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 36.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.3%

※「子育て・少子化対策」の選択肢は、平成29（2017）年以前では「子育て・少子化対策の充実」としていた。

※「消費生活対策」の選択肢は、平成27（2015）年以前では「消費生活の安定」としていた。

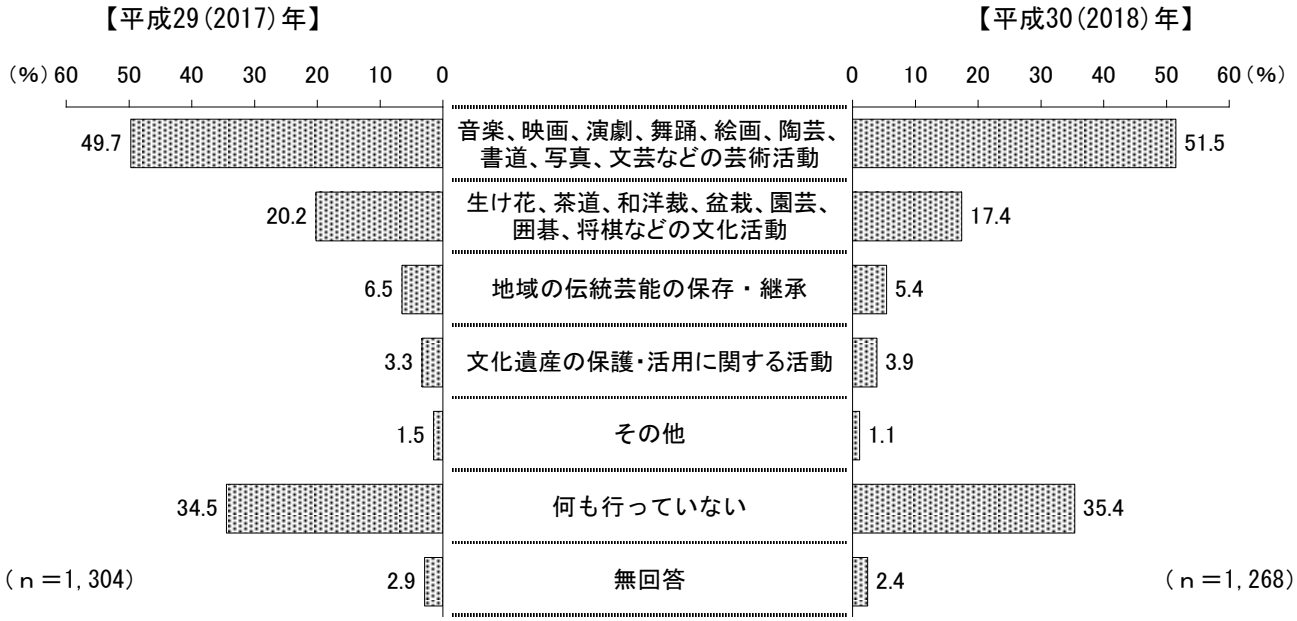
・上位５項目について、全体及び４区分した年齢層別に過去の調査結果と比較すると、全体では、平成26（2014）年以降「高齢者福祉対策」が１位、「医療対策」が２位となっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」は、平成26（2014）年以降３位となっているが、割合は減少傾向にある。「子育て・少子化対策」は、平成26（2014）年以降４位または５位となっている。

・20～39歳では、平成27（2015）年以降「子育て・少子化対策」が１位となっている。また、平成26（2014）年から平成29（2017）年まで３位であった「医療対策」が今回調査で２位となっており、平成27（2015）年から平成29（2017）年まで２位であった「雇用の安定と勤労者の福祉」が今回調査で３位となっている。
・40～59歳では、平成28（2016）年以降「高齢者福祉対策」が１位、「医療対策」が２位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が３位となっている。
・60～69歳では、平成26（2014）年以降「高齢者福祉対策」が１位、「医療対策」が２位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が３位となっている。
・70歳以上では、平成26（2014）年以降「高齢者福祉対策」が１位、「医療対策」が２位となっている。また、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が平成26（2014）年以降３位または４位となっている。

３　日常生活について

（１）文化・芸術活動について

問６　あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。
次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「音楽、映画、演劇、舞踊、絵画、陶芸、書道、写真、文芸などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（51.5%）が５割を超えて最も高く、次いで「生け花、茶道、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」（17.4%）が２割近くとなっている。一方、「何も行っていない」（35.4%）は３割半ばとなっている。

・性別でみると、『芸術活動』では〈女性〉（56.4%）が〈男性〉（46.6%）より9.8ポイント高くなっている。『文化活動』では〈女性〉（21.2%）が〈男性〉（13.2%）より8.0ポイント高くなっている。

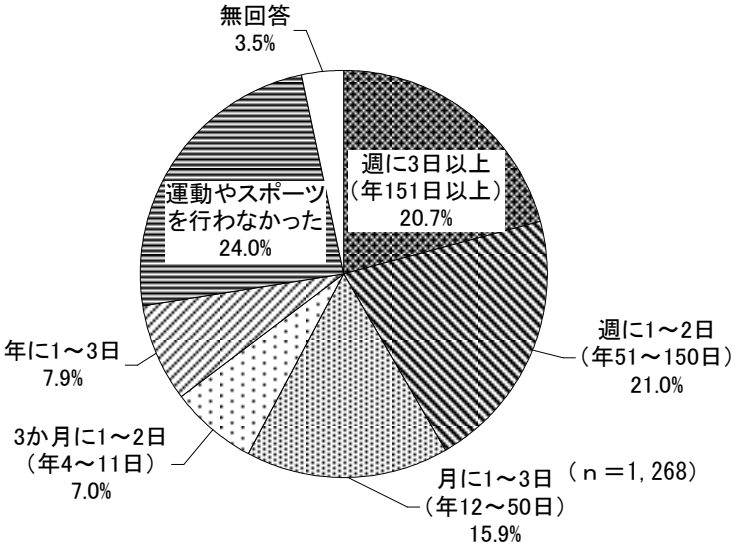
・性／年齢別でみると、『芸術活動』では〈男性20歳代〉が78.1%、〈女性20歳代〉が68.9%、〈女性40歳代〉が67.0%と高くなっている。『文化活動』では〈女性60～64歳〉が38.6%、〈女性65～69歳〉が33.9%と高くなっている。「何も行っていない」では〈男性65～69歳〉が47.9%、〈男性50歳代〉が46.5%と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、『文化活動』が2.8ポイント減少している。

（２）スポーツ活動について

問７　あなたは、この１年間にどの程度運動やスポーツ（※）を行いましたか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］

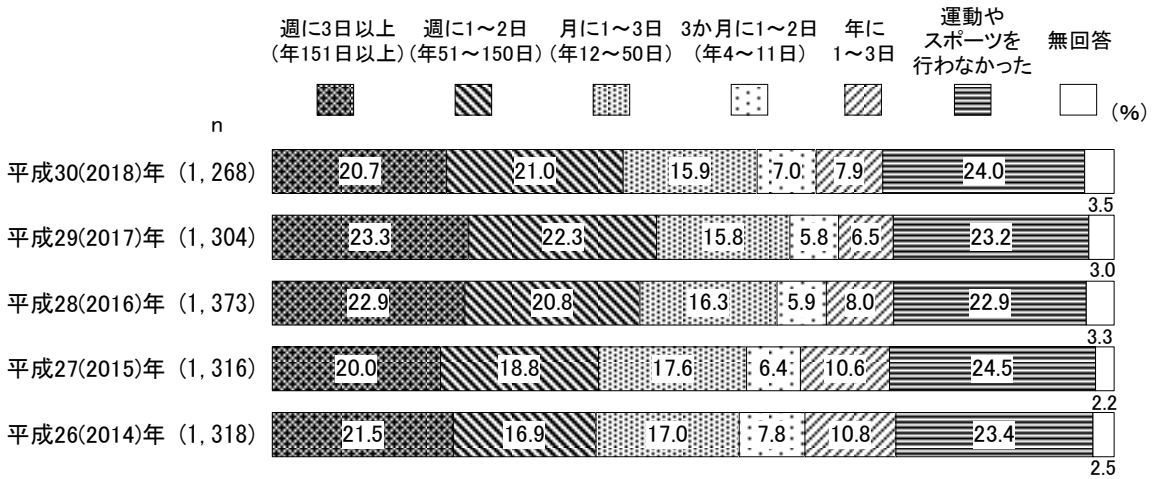
※　運動やスポーツには、ウォーキング（歩け歩け運動、散歩などを含む）、ジョギング、体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む）、室内運動器具を使ってする運動、ニュースポーツ（ゲートボール、グラウンドゴルフ、インディアカなどを含む）、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングなどを含みます。



・全体でみると、「週に３日以上（年１５１日以上）」（20.7%）と「週に１～２日（年５１～１５０日）」（21.0%）はともに２割台となっており、「月に１～３日（年１２～５０日）」（15.9%）は１割半ばとなっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」（24.0%）は２割半ばとなっている。

・性別でみると、「月に１～３日（年１２～５０日）」では〈男性〉（18.1%）が〈女性〉（13.9%）より4.2ポイント高くなっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈女性〉（27.3%）が〈男性〉（20.4%）より6.9ポイント高くなっている。

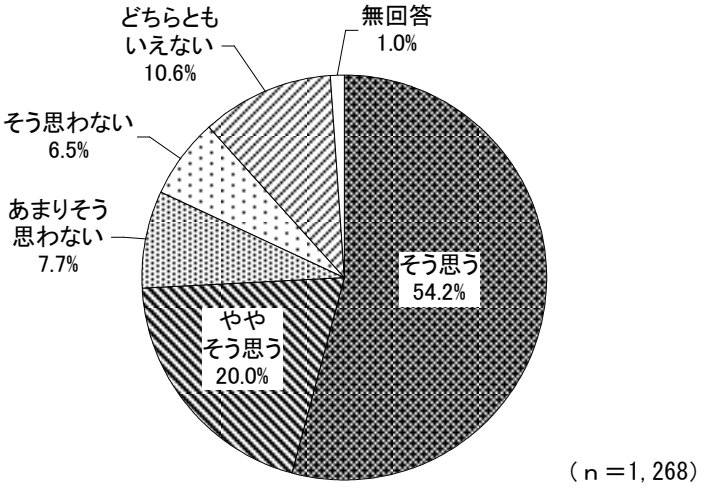
・性／年齢別でみると、「週に３日以上（年１５１日以上）」では〈女性70歳以上〉が32.6%、〈男性70歳以上〉が32.0%と高くなっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈女性20歳代〉が33.3%、〈女性50歳代〉が31.4%と高くなっている。



・過去の調査結果と比較すると、「週に３日以上（年１５１日以上）」が平成29（2017）年より2.6ポイント減少している。

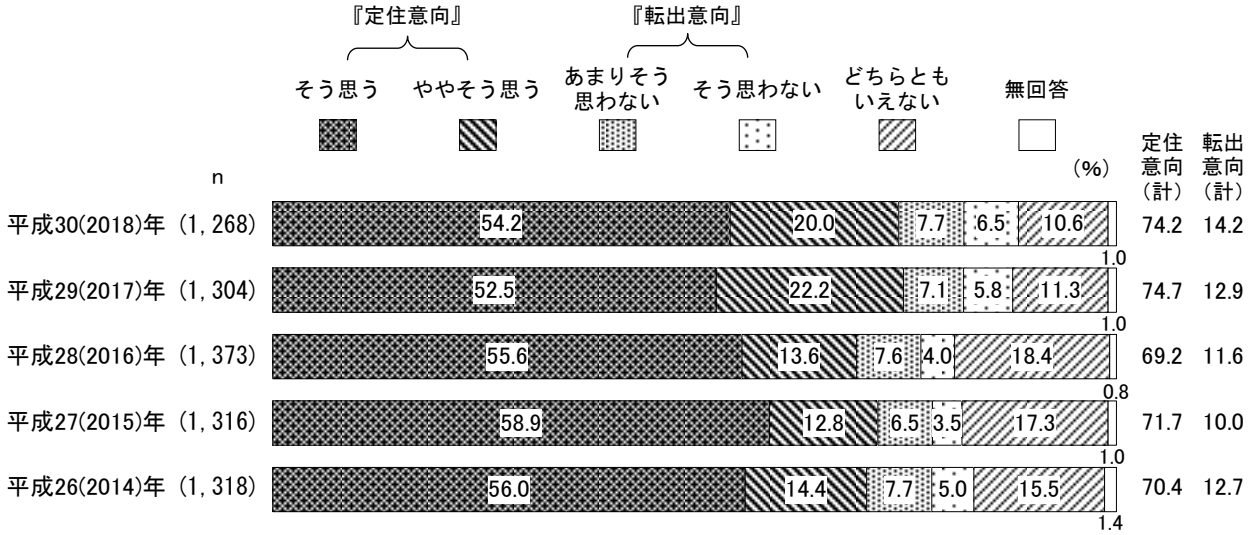
（３）住んでいる地域について

問８　あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「そう思う」(54.2%)と「ややそう思う」(20.0%)の２つを合わせた『定住意向』(74.2%)は７割半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」（7.7%）と「そう思わない」（6.5%）の２つを合わせた『転出意向』（14.2%）は１割半ばとなっている。

・性別でみると、『定住意向』と『転出意向』の割合に大きな傾向の違いはみられない。
・性／年齢別でみると、『定住意向』では〈男性20歳代〉が90.7%、〈男性65～69歳〉が84.5%と高くなっている。一方、『転出意向』では〈女性60～64歳〉が20.0%、〈男性60～64歳〉が19.4%と高くなっている。

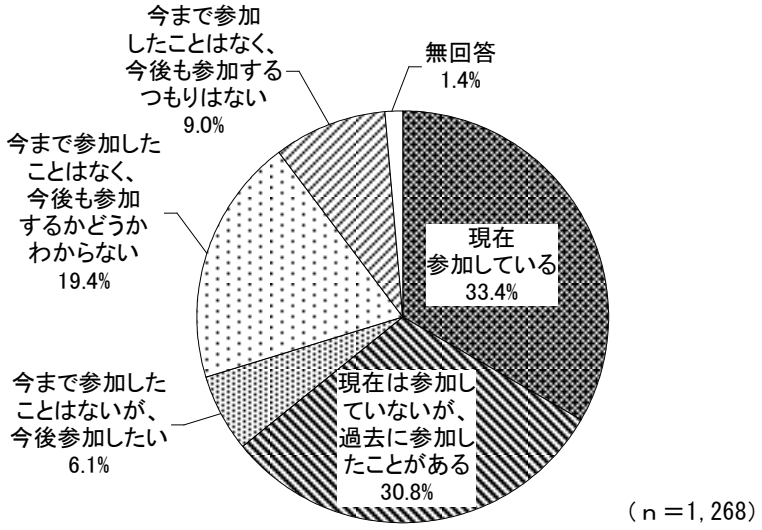


・過去の調査結果と比較すると、平成29（2017）年と大きな傾向の違いはみられない。

（４）社会貢献活動について

問９　あなたは、社会貢献活動（※）に参加したことがありますか。また、参加したことがない方は、今後参加したいと思いますか。次の中から１つ選んでください。［ｎ＝1,268］

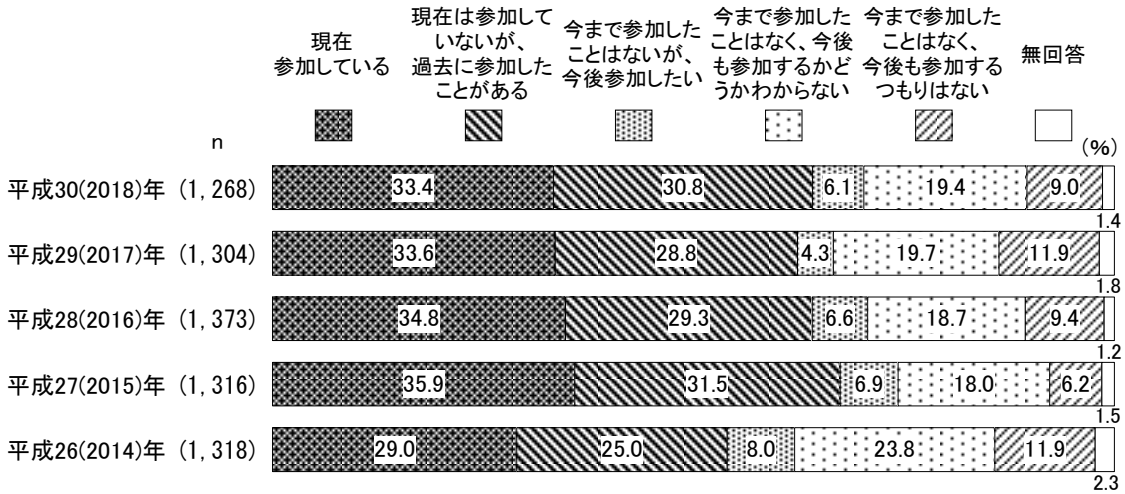
※　社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやＮＰＯ(非営利活動団体)活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。



・全体でみると、「現在参加している」（33.4%）は３割を超えている。「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」（30.8%）はほぼ３割で、「今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない」（19.4%）はほぼ２割となっている。

・性別でみると、「今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない」では〈男性〉(22.3%)が〈女性〉（16.3%）より6.0ポイント高くなっている。「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」では〈女性〉（33.1%）が〈男性〉（27.5%）より5.6ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「現在参加している」では〈女性40歳代〉が50.0%、〈男性65～69歳〉が42.3%と高くなっている。「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」では〈女性20歳代〉が55.6%、〈男性20歳代〉が40.6%と高くなっている。「今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない」では〈男性50歳代〉が31.7%と高くなっている。

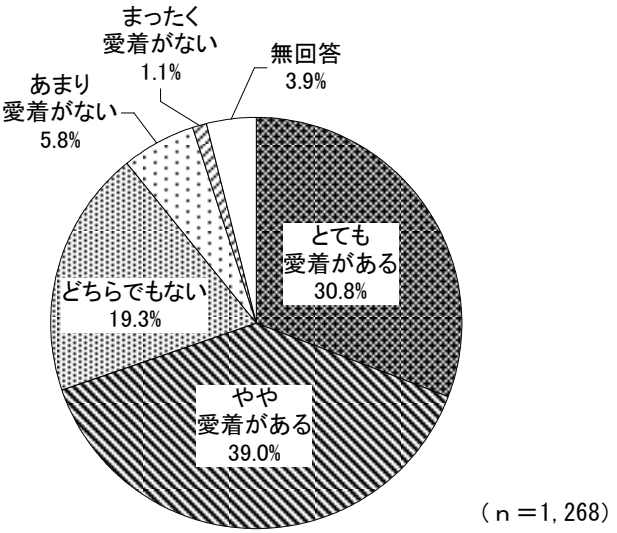


・過去の調査結果と比較すると、「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」が平成29(2017)年より2.0ポイント増加している。一方、「今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」が平成29（2017）年より2.9ポイント減少している。

４　栃木県への愛着と誇りについて

（１）栃木県に対する愛着

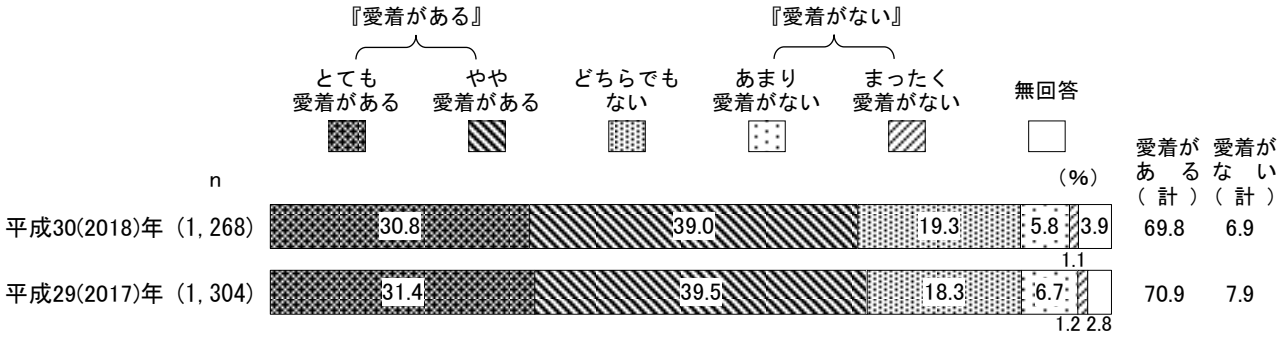
問10　あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「とても愛着がある」（30.8%）と「やや愛着がある」（39.0%）の２つを合わせた『愛着がある』（69.8%）は７割となっている。一方、「あまり愛着がない」（5.8%）と「まったく愛着がない」（1.1%）の２つを合わせた『愛着がない』（6.9%）は１割近くとなっている。また、「どちらでもない」（19.3%）はほぼ２割となっている。

・性別でみると、『愛着がある』では〈女性〉（71.5%）が〈男性〉（68.6%）より2.9ポイント高くなっている。

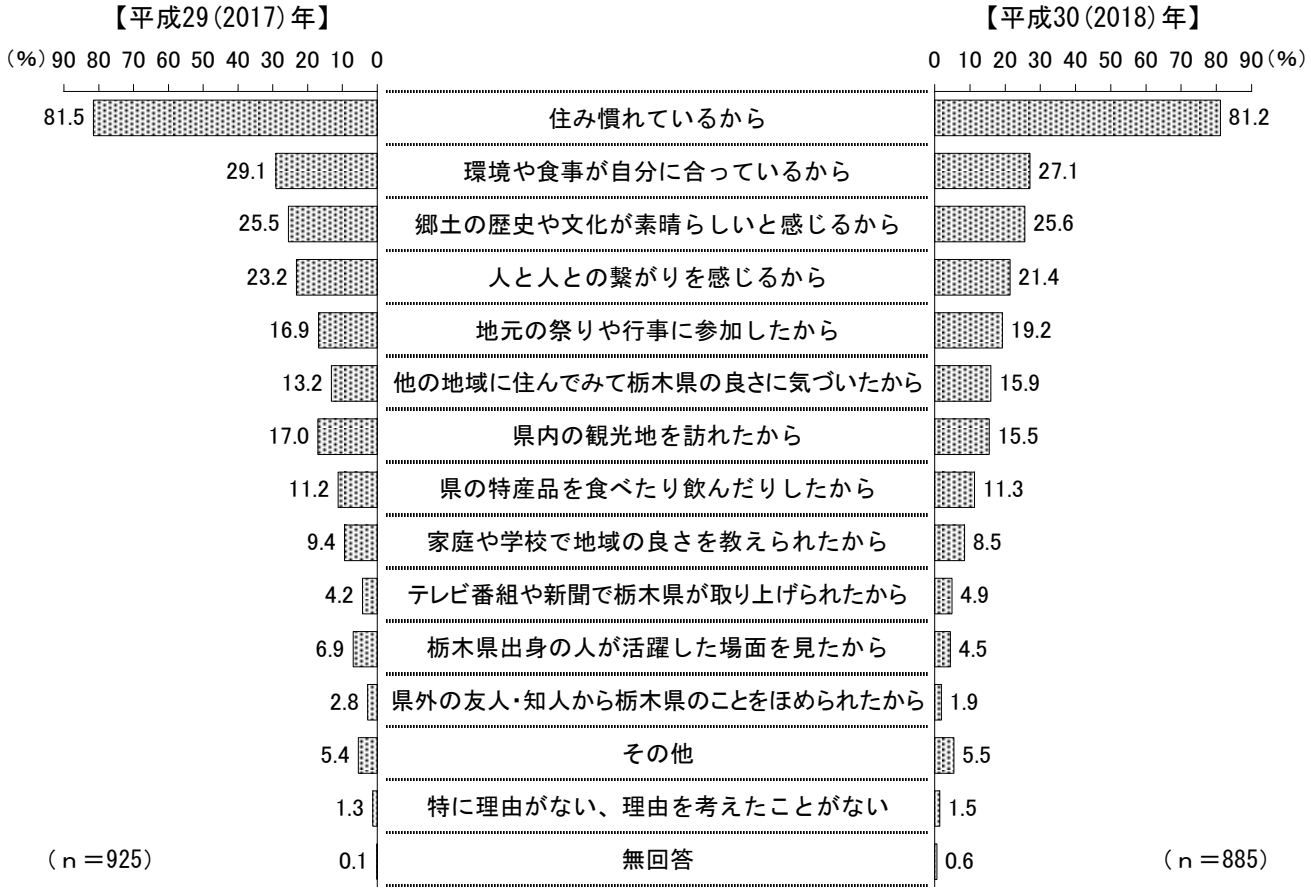
・性／年齢別でみると、「とても愛着がある」では〈男性65～69歳〉が40.8%と高くなっている。『愛着がある』では〈男性20歳代〉が81.3%、〈男性65～69歳〉が77.4%、〈女性50歳代〉が76.2%と高くなっている。



・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

（１－１）栃木県に愛着を感じる理由

（問10で選択肢「とても愛着がある」、「やや愛着がある」を選んだ方のみお答えください）
問10－１　あなたが愛着を感じる理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。
［ｎ＝885］



・全体でみると、「住み慣れているから」（81.2%）が８割を超えて最も高く、次いで「環境や食事が自分に合っているから」（27.1%）、「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」（25.6%）、「人と人との繋がりを感じるから」（21.4%）、「地元の祭りや行事に参加したから」（19.2%）の順となっている。

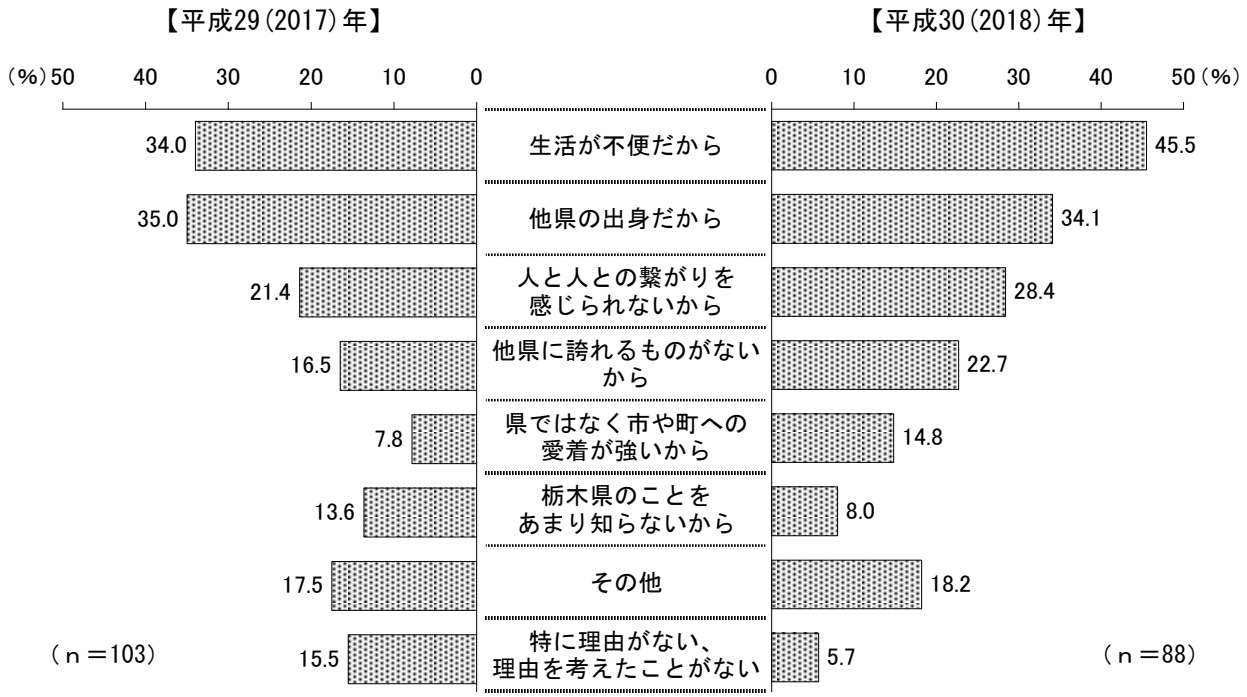
・性別でみると、「環境や食事が自分に合っているから」では〈女性〉（31.6%）が〈男性〉（22.2%）より9.4ポイント高くなっている。「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈男性〉（28.6%）が〈女性〉（23.2%）より5.4ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「環境や食事が自分に合っているから」では〈女性20歳代〉が43.8%、〈女性30歳代〉が42.1%と高くなっている。「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈男性70歳以上〉が38.8%と高くなっている。「人と人との繋がりを感じるから」では〈男性60～64歳〉が34.1%と高くなっている。「県内の観光地を訪れたから」では〈女性65～69歳〉が31.4%と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、「他の地域に住んでみて栃木県の良さに気づいたから」が2.7ポイント、「地元の祭りや行事に参加したから」が2.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「栃木県出身の人が活躍した場面を見たから」が2.4ポイント、「環境や食事が自分に合っているから」が2.0ポイント、それぞれ減少している。

（１－２）栃木県に愛着を感じない理由

（問10で選択肢「あまり愛着がない」、「まったく愛着がない」を選んだ方のみお答えください）
問10－２　あなたが愛着を感じない理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。
［ｎ＝88］



・全体でみると、「生活が不便だから」（45.5%）が４割半ばで最も高く、次いで「他県の出身だから」（34.1%）、「人と人との繋がりを感じられないから」（28.4%）、「他県に誇れるものがないから」（22.7%）、「県ではなく市や町への愛着が強いから」（14.8%）の順となっている。

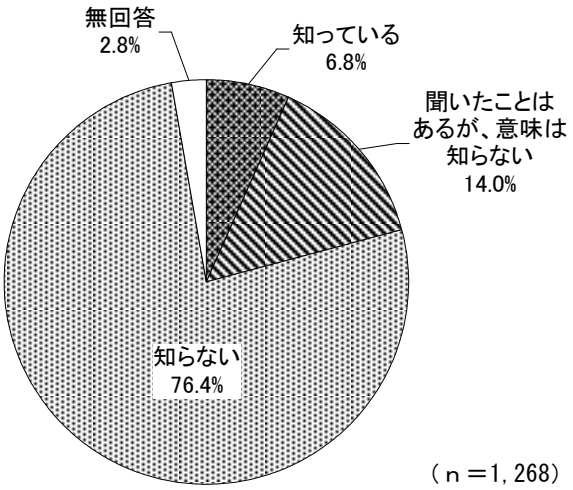
・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、「生活が不便だから」が11.5ポイント、「人と人との繋がりを感じられないから」と「県ではなく市や町への愛着が強いから」がともに7.0ポイント、「他県に誇れるものがないから」が6.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「栃木県のことをあまり知らないから」が5.6ポイント減少している。

（２）「ＶＥＲＹ　ＧＯＯＤ　ＬＯＣＡＬ　とちぎ」の認知度

問11　あなたは、「ＶＥＲＹ　ＧＯＯＤ　ＬＯＣＡＬ　とちぎ（ベリー　グッド　ローカル　とちぎ）」（※）というキャッチフレーズを知っていますか。次の中から１つ選んでください。

［ｎ＝1,268］

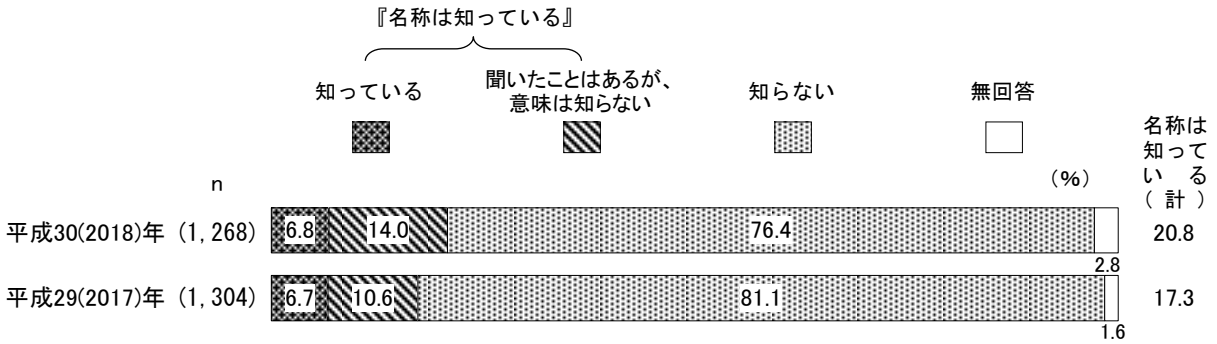
※　「ＶＥＲＹ　ＧＯＯＤ　ＬＯＣＡＬ　とちぎ」とは、充実した都市機能とともに、豊かな自然、優れた歴史・文化、人と人とのつながりなど、「ローカル（地方）」の良さを兼ね備えた栃木県の魅力・実力を表現した、とちぎブランド推進のキャッチフレーズです。



・全体でみると、「知っている」（6.8%）と「聞いたことはあるが、意味は知らない」（14.0%）の２つを合わせた『名称は知っている』（20.8%）はほぼ２割となっている。一方、「知らない」（76.4%）は７割半ばとなっている。

・性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

・性／年齢別でみると、「知っている」では〈男性20歳代〉が12.5%、〈女性70歳以上〉が11.0%と高くなっている。『名称は知っている』では〈女性70歳以上〉が31.3%、〈女性65～69歳〉が30.5%と高くなっている。一方、「知らない」では〈女性20歳代〉が91.1%、〈女性60～64歳〉が87.1%、〈女性30歳代〉が86.3%と高くなっている。

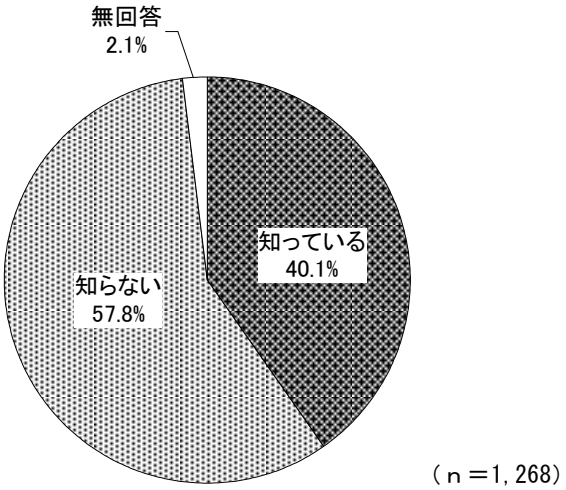


・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、『名称は知っている』が3.5ポイント増加している。

５　第77回国民体育大会開催について

（１）２０２２年に国体を栃木県で開催することの認知度

問12　あなたは、２０２２年に、第７７回国民体育大会を栃木県で開催することを知っていますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



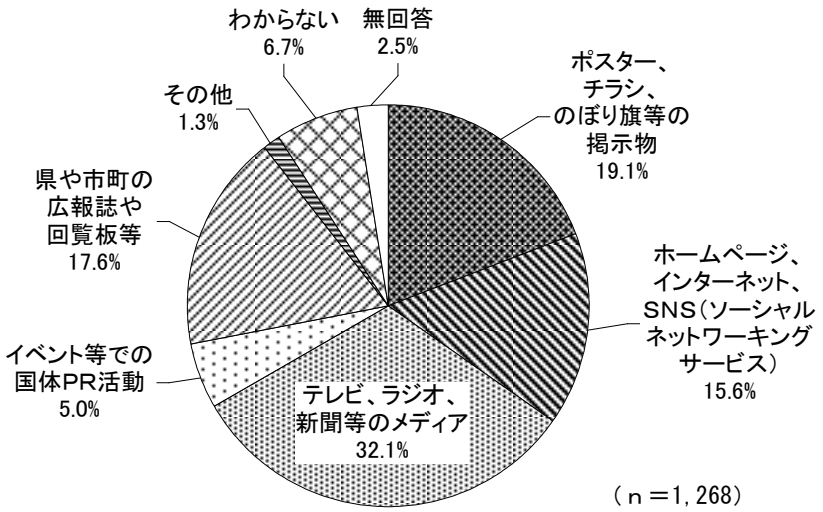
・全体でみると、「知っている」（40.1％）が４割となっている。一方、「知らない」（57.8％）は６割近くとなっている。

・性別でみると、「知っている」では〈男性〉（45.1％）が〈女性〉（35.8％）より9.3ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「知っている」では〈男性65～69歳〉が53.5％、〈男性70歳以上〉が49.7％、〈男性60～64歳〉が49.3％と高くなっている。一方、「知らない」では〈女性20歳代〉が86.7％、〈女性50歳代〉が68.6％と高くなっている。

（２）栃木県で開催する国体を周知するために効果的な広報手段

問13　あなたは、栃木県で開催する国体を周知するためには、どのような広報手段が効果的だと思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



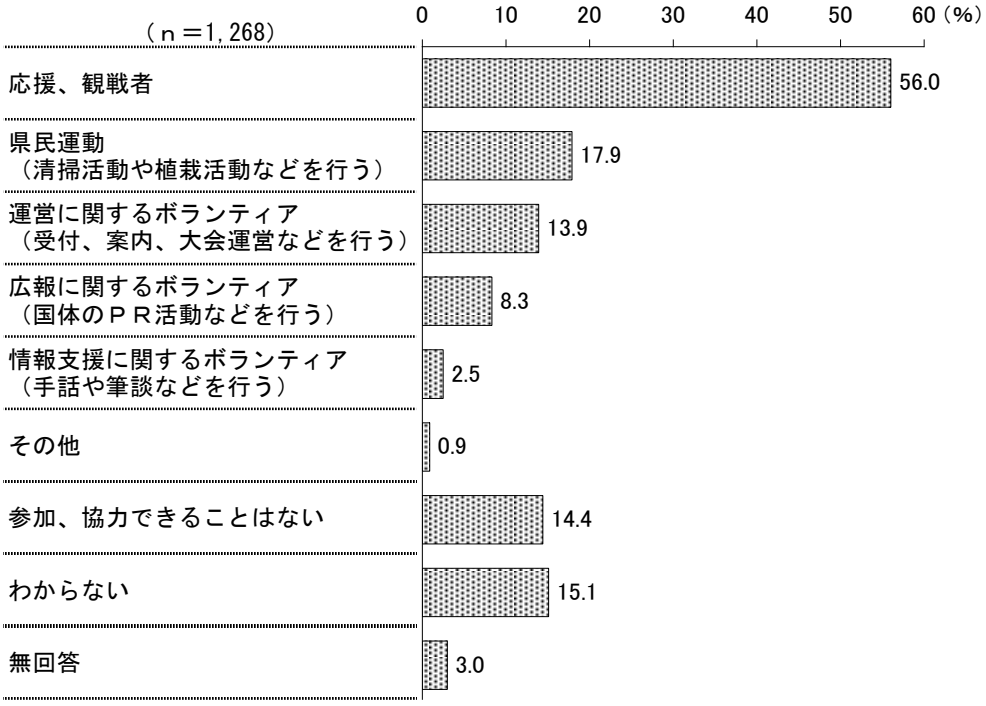
・全体でみると、「テレビ、ラジオ、新聞等のメディア」（32.1%）が３割を超えて最も高く、次いで「ポスター、チラシ、のぼり旗等の掲示物」（19.1%）、「県や市町の広報誌や回覧板等」（17.6%）、「ホームページ、インターネット、ＳＮＳ（ソーシャルネットワーキングサービス）」（15.6%）の順となっている。

・性別でみると、「県や市町の広報誌や回覧板等」では〈女性〉（20.9%）が〈男性〉（14.4%）より6.5ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「県や市町の広報誌や回覧板等」では〈女性60～64歳〉が41.4%、〈女性65～69歳〉が32.2%と高くなっている。「ホームページ、インターネット、ＳＮＳ（ソーシャルネットワーキングサービス）」では〈女性20歳代〉が44.4%、〈男性20歳代〉が43.8%と高くなっている。

（３）栃木県で開催する国体に参加・協力できる方法

問14　国体を盛り上げていくためには、選手や競技役員以外にも多くの方のご参加、ご協力が必要です。あなたは、選手や競技役員以外でどのような形でなら参加、協力できると思いますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「応援、観戦者」（56.0%）が５割半ばで最も高く、次いで「県民運動（清掃活動や植栽活動などを行う）」（17.9%）、「運営に関するボランティア（受付、案内、大会運営などを行う）」（13.9%）、「広報に関するボランティア（国体のＰＲ活動などを行う）」（8.3%）の順となっている。

・性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

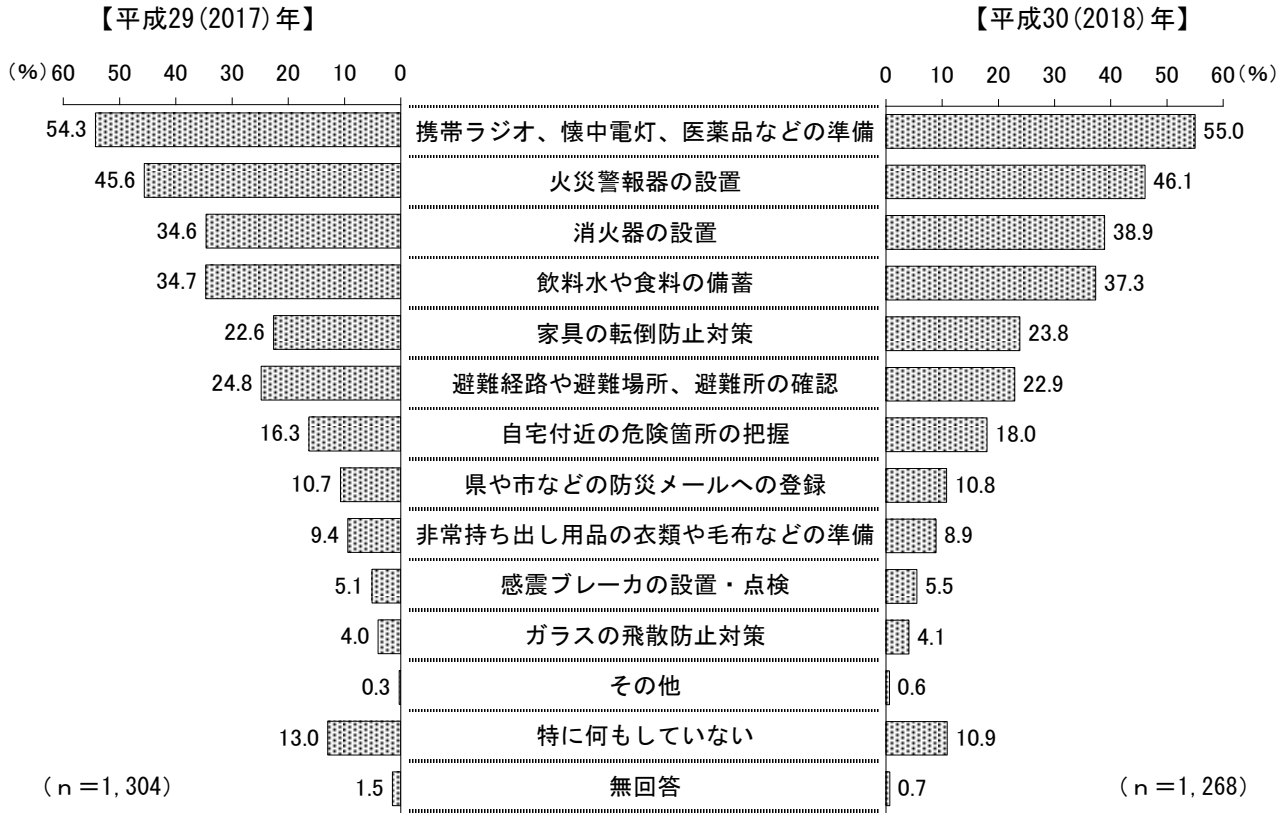
・性／年齢別でみると、「県民運動（清掃活動や植栽活動などを行う）」では〈女性50歳代〉が30.5%と高くなっている。「運営に関するボランティア（受付、案内、大会運営などを行う）」では〈男性20歳代〉が28.1%、〈女性40歳代〉が27.7%、〈女性20歳代〉が26.7%と高くなっている。

６　地域防災について

（１）災害に対する備え

問15　あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,268］

※　感震ブレーカとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に、配線用ブレーカ又は漏電ブレーカなどを遮断する器具をいいます。



・全体でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」（55.0％）が５割半ばで最も高く、次いで「火災警報器の設置」（46.1％）、「消火器の設置」（38.9％）、「飲料水や食料の備蓄」（37.3％）、「家具の転倒防止対策」（23.8％）の順となっている。

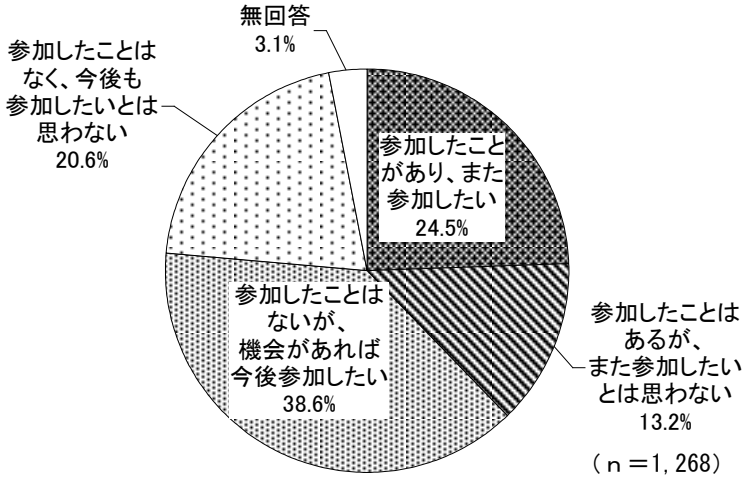
・性別でみると、「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性〉（26.7％）が〈男性〉（19.3％）より7.4ポイント高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性〉（39.5％）が〈男性〉（35.3％）より4.2ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性70歳以上〉が65.7％、〈男性70歳以上〉が65.3％、〈男性65～69歳〉が64.8％と高くなっている。「火災警報器の設置」では〈女性65～69歳〉が59.3％と高くなっている。「消火器の設置」では〈女性60～64歳〉が54.3％と高くなっている。「家具の転倒防止対策」では〈女性65～69歳〉が32.2％と高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性65～69歳〉が33.9％、〈女性20歳代〉が33.3％と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、「消火器の設置」が4.3ポイント、「飲料水や食料の備蓄」が2.6ポイント、それぞれ増加している。

（２）防災訓練の参加状況

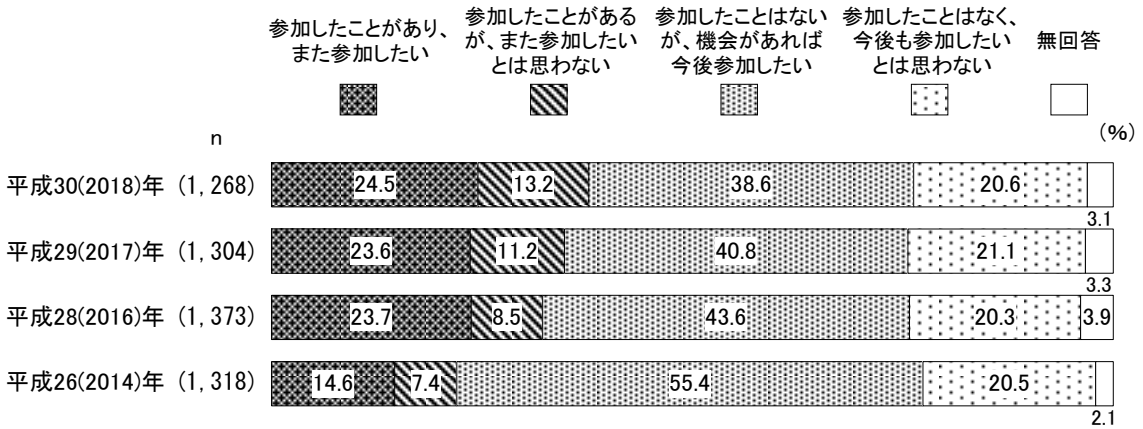
問16　あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から１つ選んでください。［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「参加したことがあり、また参加したい」（24.5%）は２割半ばとなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」（38.6%）は４割近くで、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」（20.6%）はほぼ２割となっている。

・性別でみると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉（44.2%）が〈男性〉（33.1%）より11.1ポイント高くなっている。「参加したことがあり、また参加したい」では〈男性〉（27.7%）が〈女性〉（21.6%）より6.1ポイント高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈男性〉（23.1%）が〈女性〉（18.3%）より4.8ポイント高くなっている。

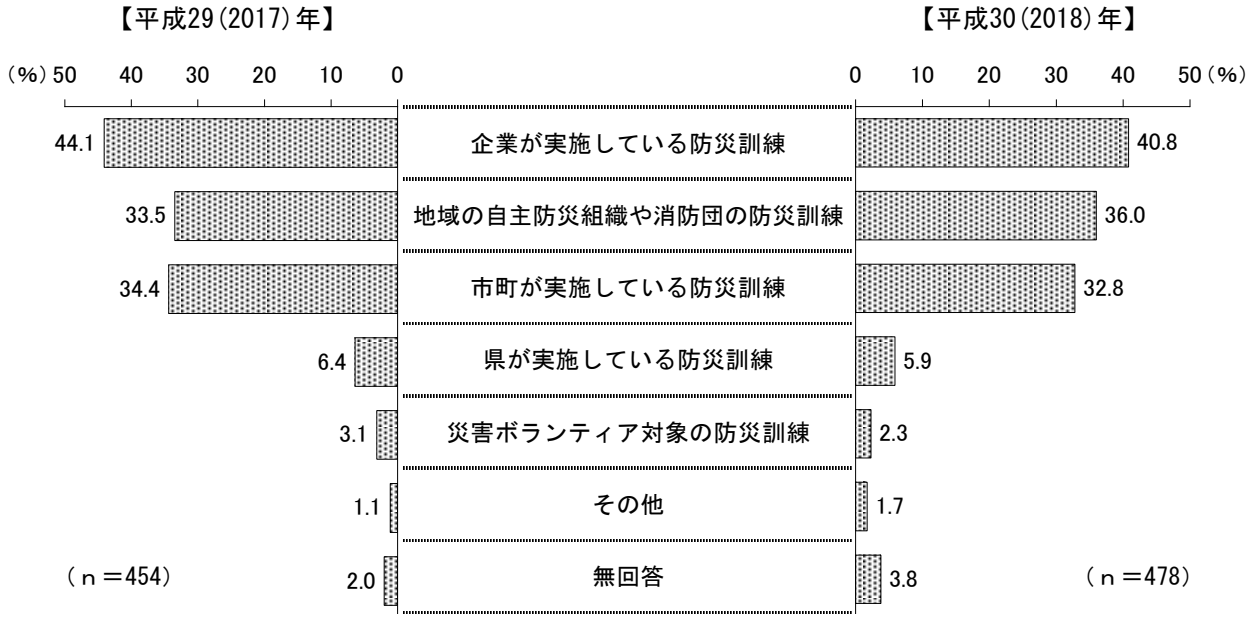
・性／年齢別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈男性65～69歳〉が32.4%、〈男性40歳代〉が30.1%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性20歳代〉が60.0%、〈女性30歳代〉が55.0%と高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈男性20歳代〉が31.3%、〈男性50歳代〉が30.7%と高くなっている。



・過去の調査結果と比較すると、「参加したことがあるが、また参加したいとは思わない」が平成29（2017）年より2.0ポイント増加している。一方、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」が平成29（2017）年より2.2ポイント減少している。

（２－１）参加したことがある防災訓練

（問16で選択肢「参加したことがあり、また参加したい」、「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」を選んだ方のみお答えください）
問16－１　あなたは、今までどのような訓練に参加したことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝478］



・全体でみると、「企業が実施している防災訓練」（40.8％）がほぼ４割で最も高く、次いで「地域の自主防災組織や消防団の防災訓練」（36.0％）、「市町が実施している防災訓練」（32.8％）の順となっている。

・性別でみると、「県が実施している防災訓練」では〈男性〉（7.7％）が〈女性〉（3.6％）より4.1ポイント高くなっている。「企業が実施している防災訓練」では〈男性〉（42.5％）が〈女性〉（39.2％）より3.3ポイント高くなっている。

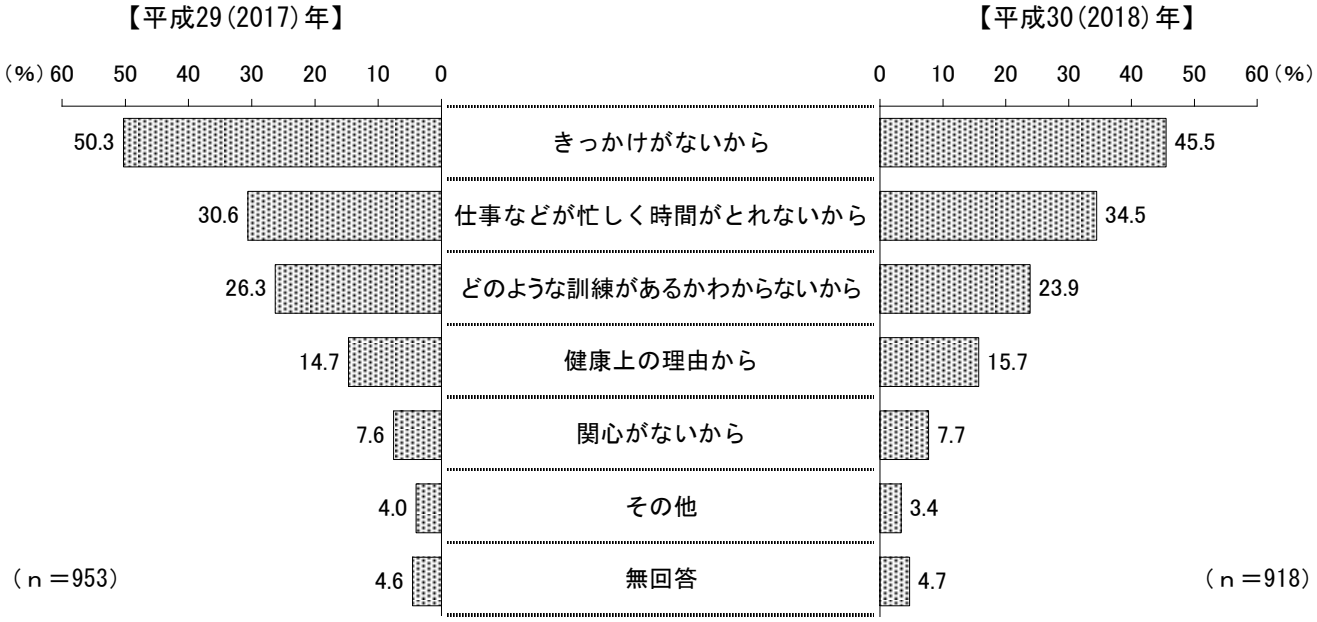
・性／年齢別でみると、「企業が実施している防災訓練」では〈男性30歳代〉が71.4％、〈女性50歳代〉が66.7％と高くなっている。「地域の自主防災組織や消防団の防災訓練」では〈男性70歳以上〉が49.2％、〈男性65～69歳〉が45.7％と高くなっている。「市町が実施している防災訓練」では〈女性70歳以上〉が55.2％、〈男性70歳以上〉が54.0％と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、「地域の自主防災組織や消防団の防災訓練」が2.5ポイント増加している。一方、「企業が実施している防災訓練」が3.3ポイント減少している。

（２－２）防災訓練に参加したことがない理由・今後参加したいと思わない理由

（問16で選択肢「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」を選んだ方のみお答えください）

問16－２　あなたが、訓練に参加したことがない又は今後参加したいと思わない理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝918］



・全体でみると、「きっかけがないから」（45.5%）が４割半ばで最も高く、次いで「仕事などが忙しく時間がとれないから」（34.5%）、「どのような訓練があるかわからないから」（23.9%）、「健康上の理由から」（15.7%）の順となっている。

・性別でみると、「関心がないから」では〈男性〉（10.6%）が〈女性〉（5.1%）より5.5ポイント高くなっている。「きっかけがないから」では〈女性〉（48.0%）が〈男性〉（43.3%）より4.7ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「きっかけがないから」では〈女性65～69歳〉が62.5%、〈女性60～64歳〉が58.0%と高くなっている。「仕事などが忙しく時間がとれないから」では〈女性30歳代〉が58.8%、〈女性40歳代〉が54.9%、〈男性50歳代〉が54.8%と高くなっている。「健康上の理由から」では〈女性70歳以上〉が46.0%、〈男性70歳以上〉が40.4%と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、「仕事などが忙しく時間がとれないから」が3.9ポイント増加している。一方、「きっかけがないから」が4.8ポイント、「どのような訓練があるかわからないから」が2.4ポイント、それぞれ減少している。

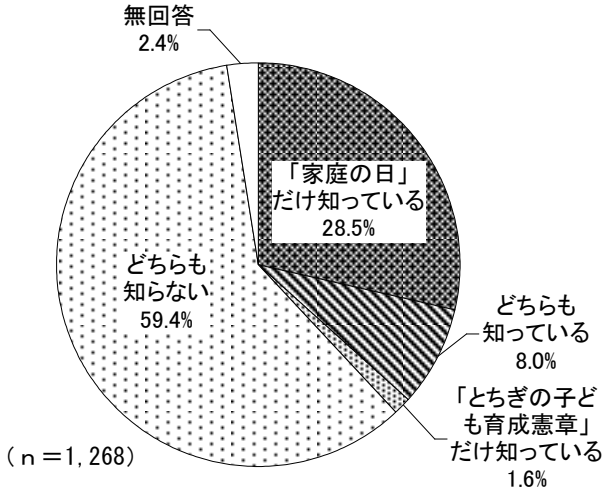
7　青少年の健全育成について

（１）「家庭の日」「とちぎの子ども育成憲章」の認知度

問17　あなたは、「家庭の日（※1）」（毎月第３日曜日）及び「とちぎの子ども育成憲章（※2）」を知っていますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］

※１　「家庭の日」とは、家庭は、青少年が基本的な生活習慣や規範意識の基礎を身につけ、人格を形成する上で大きな役割を担う大切な場であることから、家族のふれあいづくりのきっかけとするために、県が定めたものです。

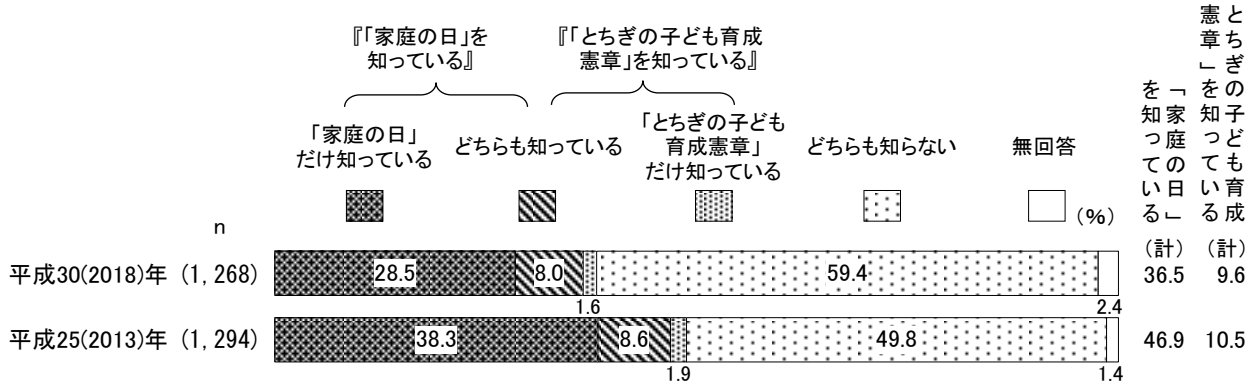
※２　「とちぎの子ども育成憲章」とは、子どもたちが夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長するために親や周りの大人がより積極的に子どもの成長に関わるための“基本理念”や“行動指針”として平成22年２月に県が制定したものです。



・全体でみると、「家庭の日」だけ知っている（28.5%）と「どちらも知っている」（8.0%）の２つを合わせた『「家庭の日」を知っている』（36.5%）は４割近く、「とちぎの子ども育成憲章」だけ知っている（1.6%）と「どちらも知っている」（8.0%）の２つを合わせた『「とちぎの子ども育成憲章」を知っている』（9.6%）は１割となっている。一方、「どちらも知らない」（59.4%）はほぼ６割となっている。

・性別でみると、『「家庭の日」を知っている』では〈女性〉（43.1%）が〈男性〉（29.0%）より14.1ポイント高くなっている。「どちらも知らない」では〈男性〉（66.7%）が〈女性〉（53.5%）より13.2ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、『「家庭の日」を知っている』では〈女性60～64歳〉が51.4%、〈女性65～69歳〉が49.2%と高くなっている。「どちらも知らない」では〈男性30歳代〉が80.6%、〈女性20歳代〉が80.0%と高くなっている。

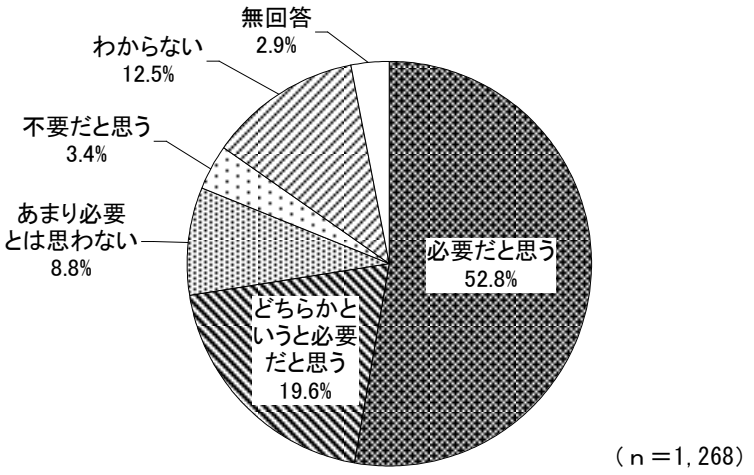


・平成25（2013）年の調査結果と比較すると、『「家庭の日」を知っている』が10.4ポイント減少している。

（２）青少年が利用する携帯電話等にフィルタリング機能を設定することについて

問18　あなたは、青少年（18歳未満）が利用する携帯電話等（スマートフォンやゲーム機含む）に、「フィルタリング機能」（※）を設定することについて、どう思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］

※　フィルタリング機能とは、パソコンや携帯電話などのインターネットに接続できる機器について、有害情報（犯罪・自殺誘因情報、わいせつ情報等）の閲覧を制限する機能をいいます。

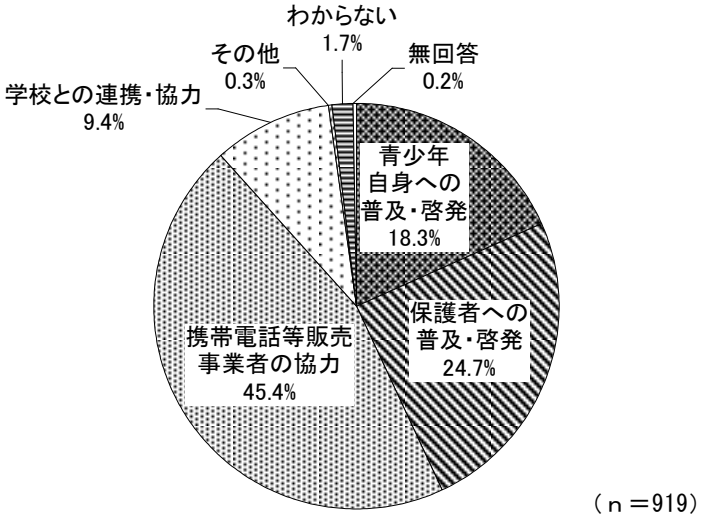


・全体でみると、「必要だと思う」（52.8%）と「どちらかというと必要だと思う」（19.6%）の２つを合わせた『必要』（72.4%）は７割を超えている。一方、「あまり必要とは思わない」（8.8%）と「不要だと思う」（3.4%）の２つを合わせた『不要』（12.2%）は１割を超えている。

・性別でみると、『不要』では〈男性〉（14.5%）が〈女性〉（10.1%）より4.4ポイント高くなっている。
・性／年齢別でみると、『必要』では〈女性30歳代〉が96.3%、〈女性40歳代〉が92.0%と高くなっている。

（２－１）フィルタリング機能の利用率を向上させるための取組

（問18で選択肢「必要だと思う」、「どちらかというと必要だと思う」を選んだ方のみお答えください）
問18－１　あなたは、フィルタリング機能の利用率を向上させるためにはどのような取組が効果的だと思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝919］



・全体でみると、「携帯電話等販売事業者の協力」（45.4％）が４割半ばで最も高く、次いで「保護者への普及・啓発」（24.7％）、「青少年自身への普及・啓発」（18.3％）、「学校との連携・協力」（9.4％）の順となっている。

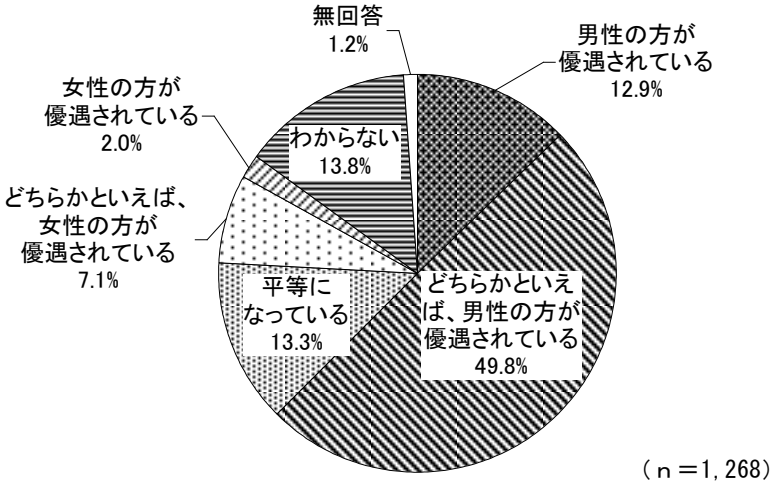
・性別でみると、「携帯電話等販売事業者の協力」では〈女性〉（47.5％）が〈男性〉（43.5％）より4.0ポイント高くなっている。「保護者への普及・啓発」では〈男性〉（26.6％）が〈女性〉（23.3％）より3.3ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「携帯電話等販売事業者の協力」では〈女性40歳代〉が60.2％、〈男性50歳代〉が56.4％と高くなっている。「保護者への普及・啓発」では〈女性20歳代〉が40.0％、〈男性20歳代〉が38.5％と高くなっている。

８　男女平等意識について

（１）社会全体の中での男女の地位の平等感

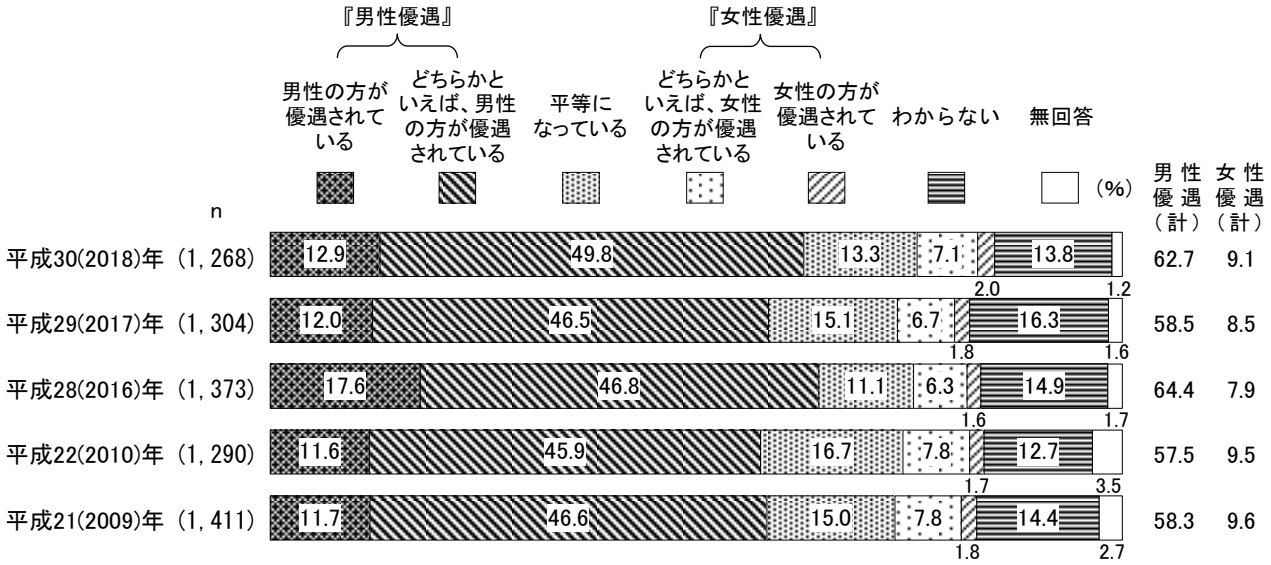
問19　あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「男性の方が優遇されている」（12.9%）と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」（49.8%）の２つを合わせた『男性優遇』（62.7%）は６割を超えている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」（7.1%）と「女性の方が優遇されている」（2.0%）の２つを合わせた『女性優遇』（9.1%）はほぼ１割となっている。また、「平等になっている」（13.3%）は１割を超えている。

・性別でみると、『男性優遇』では〈女性〉（66.5%）が〈男性〉（58.9%）より7.6ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉（13.3%）が〈女性〉（5.4%）より7.9ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、『男性優遇』では〈女性60～64歳〉が85.7%、〈女性40歳代〉が75.0%、〈女性50歳代〉が73.3%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性30歳代〉が23.6%、〈男性20歳代〉が21.9%と高くなっている。

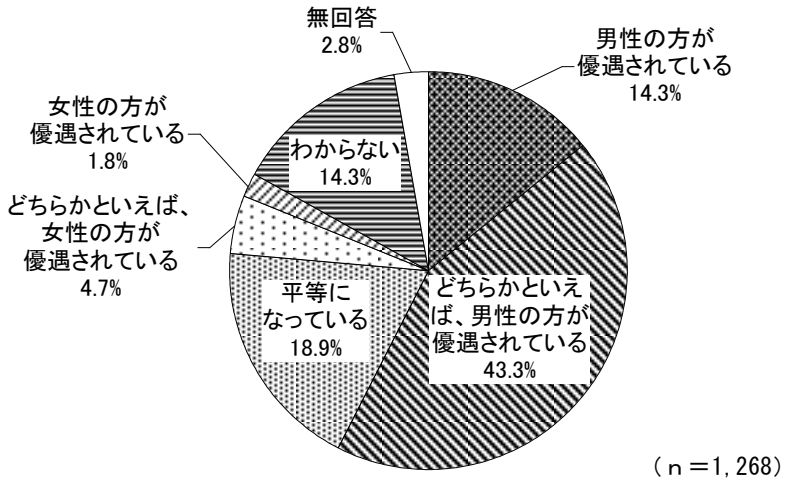


・過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が平成29（2017）年より4.2ポイント増加している。

（２）働く場での男女の地位の平等感

問20　あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から１つ選んでください。（現在働いていない方も、イメージでお答えください。）

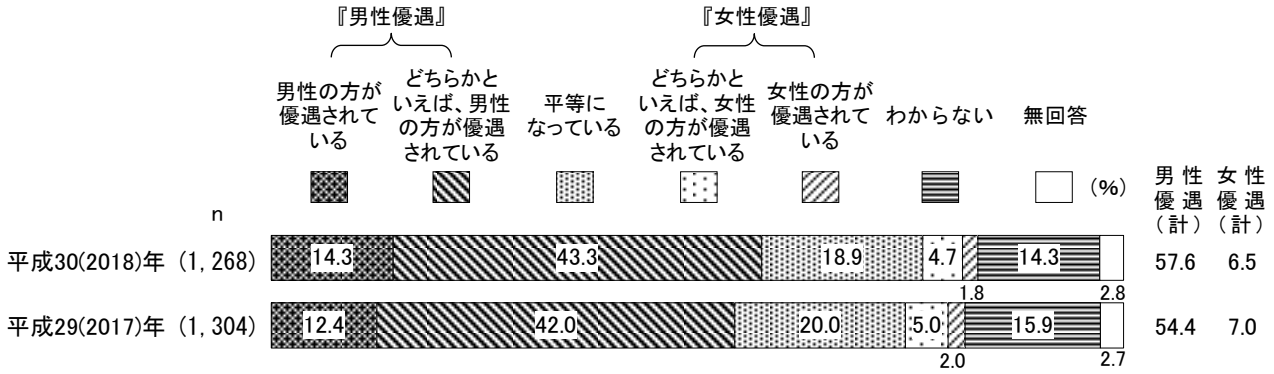
［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「男性の方が優遇されている」（14.3%）と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」（43.3%）の２つを合わせた『男性優遇』（57.6%）は６割近くとなっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」（4.7%）と「女性の方が優遇されている」（1.8%）の２つを合わせた『女性優遇』（6.5%）は１割近くとなっている。また、「平等になっている」（18.9%）は２割近くとなっている。

・性別でみると、『女性優遇』では〈男性〉（8.1%）が〈女性〉（5.0%）より3.1ポイント高くなっている。

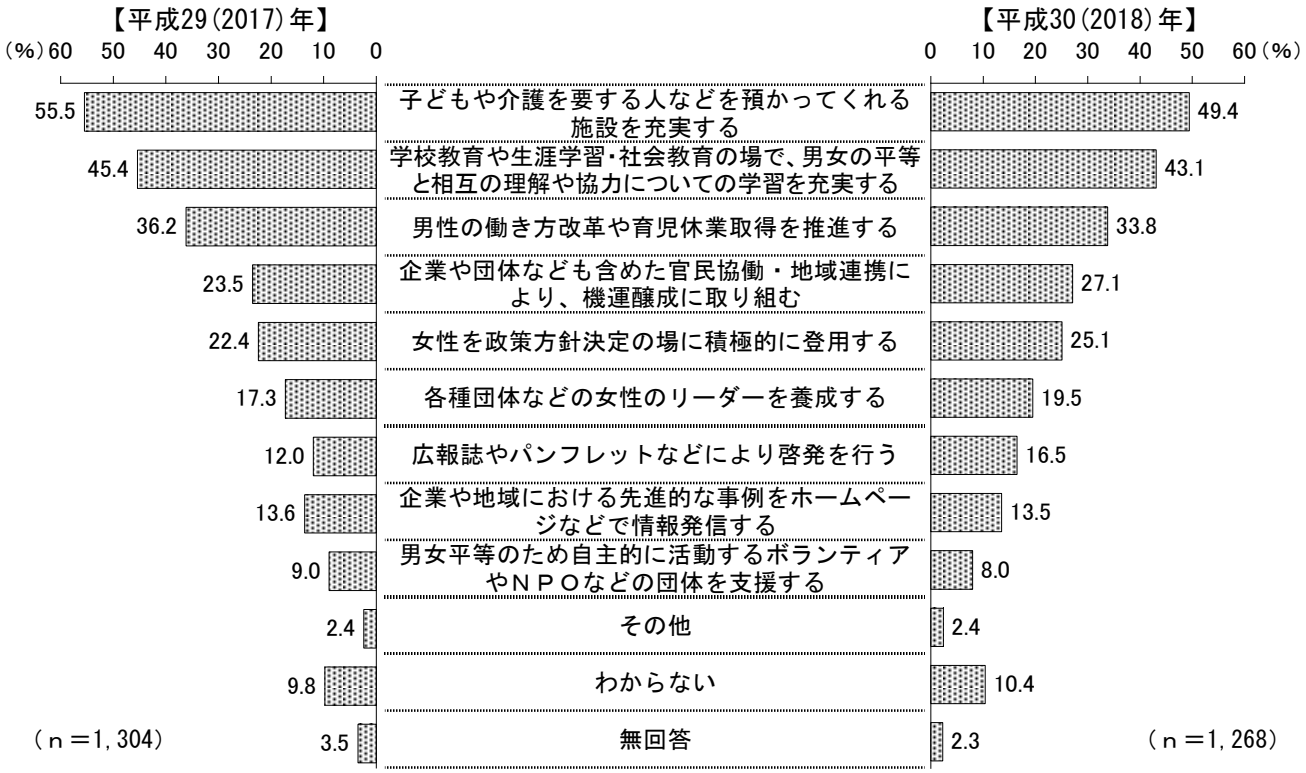
・性／年齢別でみると、『男性優遇』では〈女性65～69歳〉が67.8%、〈女性50歳代〉と〈女性60～64歳〉がともに65.7%、〈男性70歳以上〉が64.6%と高くなっている。



・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、『男性優遇』が平成29（2017）年より3.2ポイント増加している。

（３）男女平等な社会を推進していくための県の取組

問21　あなたは、今後さらに男女平等な社会を推進していくために、県はどのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実する」（49.4%）がほぼ５割で最も高く、次いで「学校教育や生涯学習・社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」（43.1%）、「男性の働き方改革や育児休業取得を推進する」（33.8%）、「企業や団体なども含めた官民協働・地域連携により、機運醸成に取り組む」（27.1%）の順となっている。

・性別でみると、「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実する」では〈女性〉（57.0%）が〈男性〉（40.9%）より16.1ポイント高くなっている。

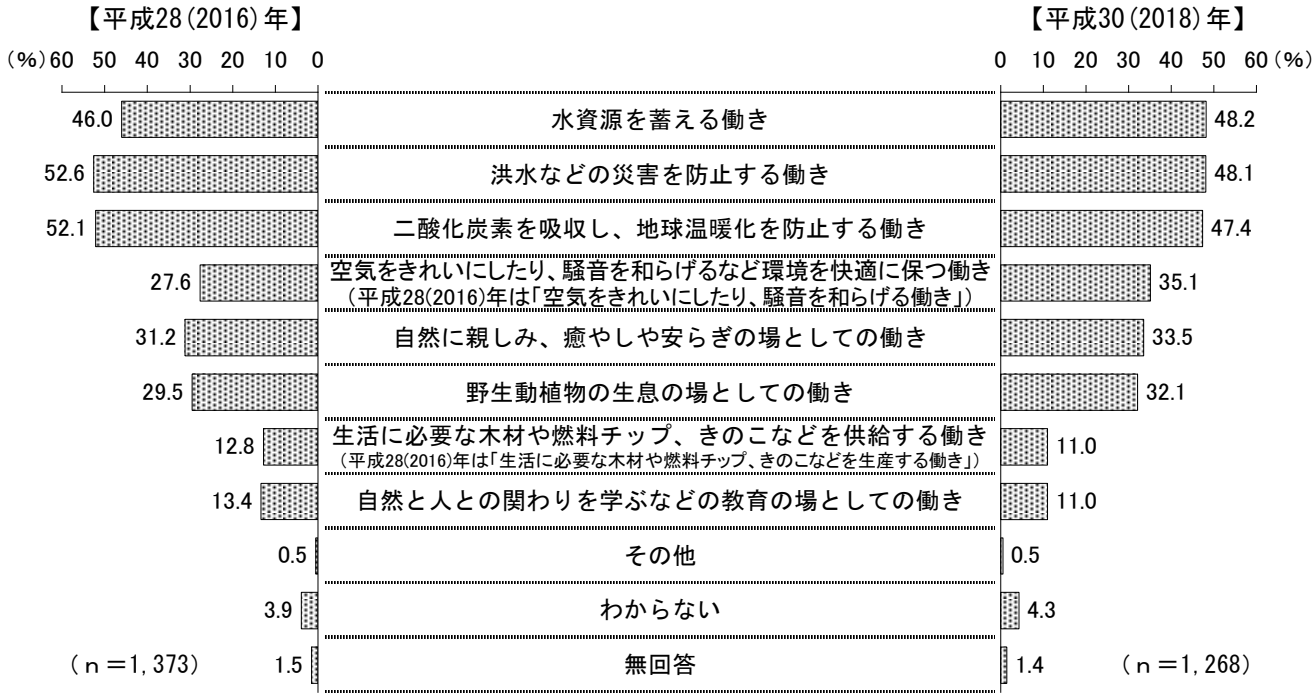
・性／年齢別でみると、「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実する」では〈女性50歳代〉が64.8%、〈女性30歳代〉が63.8%と高くなっている。「学校教育や生涯学習・社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」では〈女性65～69歳〉が57.6%と高くなっている。「男性の働き方改革や育児休業取得を推進する」では〈女性20歳代〉が57.8%と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査と比較すると、「広報誌やパンフレットなどにより啓発を行う」が4.5ポイント、「企業や団体なども含めた官民協働・地域連携により、機運醸成に取り組む」が3.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実する」が6.1ポイント減少している。

９　とちぎの元気な森づくり県民税について

（１）重要と考える森林の働き

問22　森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から３つまで選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「水資源を蓄える働き」（48.2%）と「洪水などの災害を防止する働き」（48.1%）、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」（47.4%）がそれぞれ５割近くで高く、次いで「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」（35.1%）、「自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き」（33.5%）、「野生動植物の生息の場としての働き」（32.1%）の順となっている。

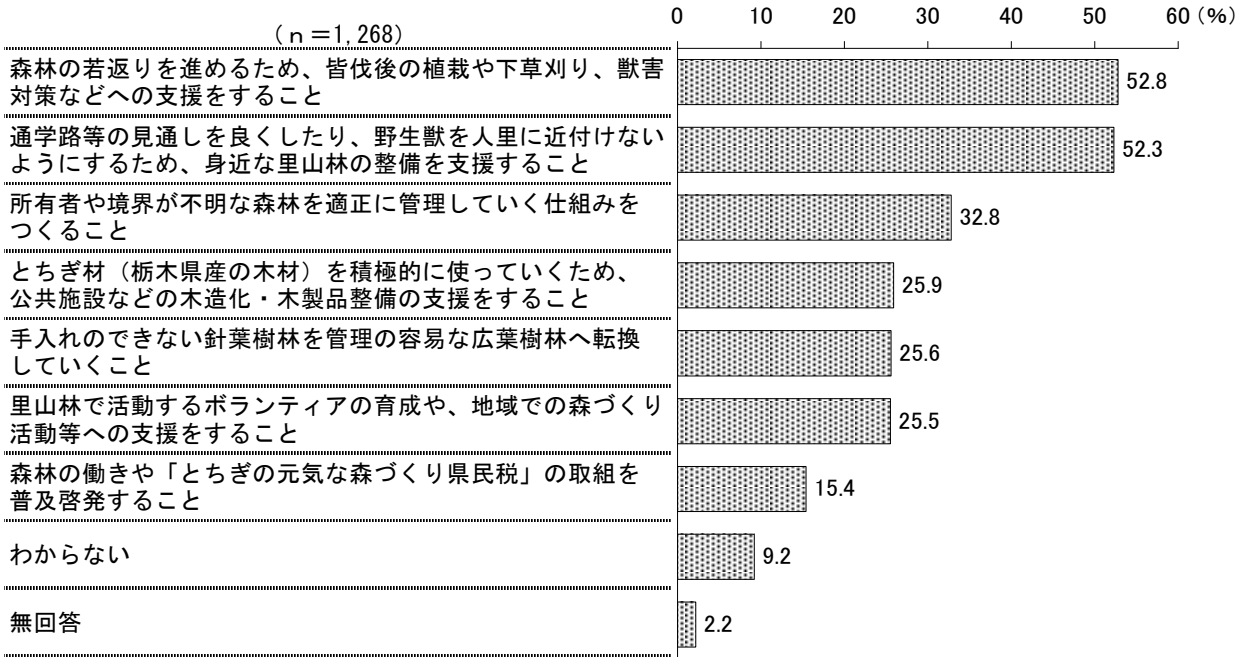
・性別でみると、「水資源を蓄える働き」では〈男性〉（55.1%）が〈女性〉（41.9%）より13.2ポイント高くなっている。「自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き」では〈女性〉（37.2%）が〈男性〉（29.9%）より7.3ポイント高くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈女性〉（50.2%）が〈男性〉（44.4%）より5.8ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「水資源を蓄える働き」では〈女性60～64歳〉が68.6%、〈男性65～69歳〉が66.2%と高くなっている。「洪水などの災害を防止する働き」では〈女性65～69歳〉が69.5%と高くなっている。「野生動植物の生息の場としての働き」では〈女性40歳代〉が50.9%と高くなっている。

・平成28（2016）年の調査結果と比較すると、「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」が7.5ポイント増加している。一方、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」が4.7ポイント、「洪水などの災害を防止する働き」が4.5ポイント、それぞれ減少している。

（２）「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問23　栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。
「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から３つまで選んでください。　［ｎ＝1,268］

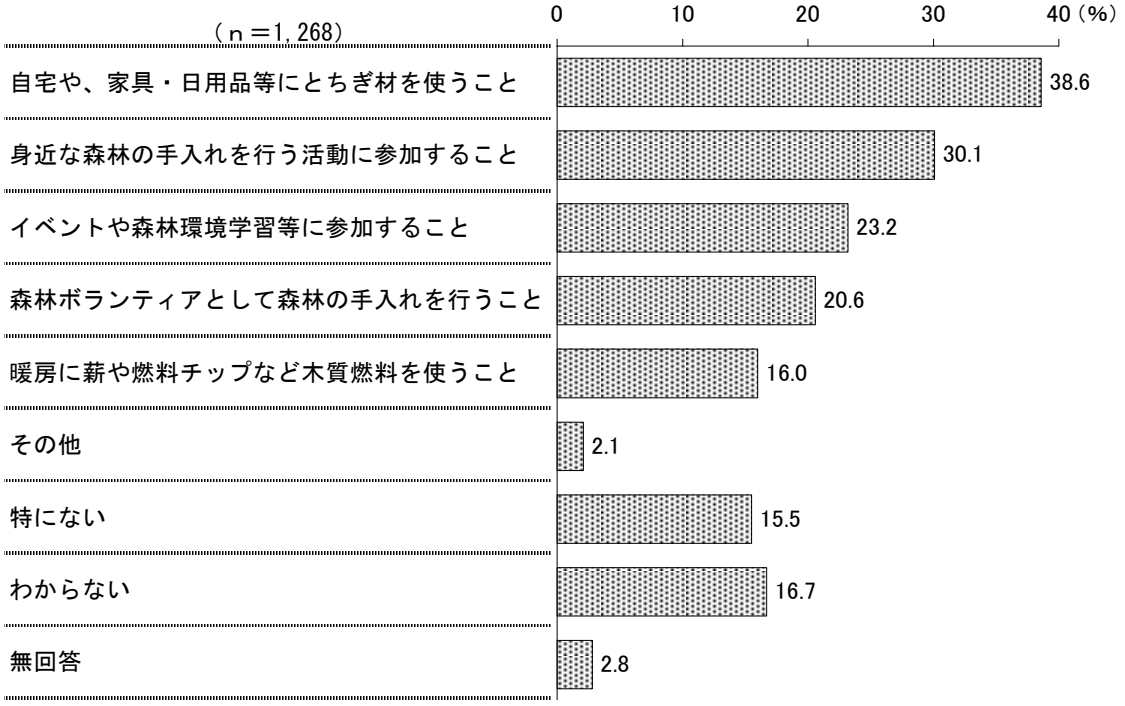


・全体でみると、「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」（52.8%）と「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」（52.3%）がともに５割を超えて高く、次いで「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」（32.8%）、「とちぎ材（栃木県産の木材）を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」（25.9%）、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」（25.6%）、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」（25.5%）の順となっている。

・性別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉（58.5%）が〈男性〉（46.3%）より12.2ポイント高くなっている。「とちぎ材を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」では〈男性〉（29.6%）が〈女性〉（22.9%）より6.7ポイント高くなっている。
・性／年齢別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性60～64歳〉が71.4%、〈女性65～69歳〉が71.2%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性50歳代〉が43.6%、〈男性60～64歳〉が43.3%と高くなっている。

（３）とちぎの森林を元気な姿で次世代に引き継ぐためにできる取組・したい取組

問24　とちぎの森林を元気な姿で次世代に引き継ぐために、あなたが、個人として「できる」又は「したい」と思う取組はどれですか。次の中から３つまで選んでください。［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「自宅や、家具・日用品等にとちぎ材を使うこと」（38.6%）が４割近くで最も高く、次いで「身近な森林の手入れを行う活動に参加すること」（30.1%）、「イベントや森林環境学習等に参加すること」（23.2%）、「森林ボランティアとして森林の手入れを行うこと」（20.6%）、「暖房に薪や燃料チップなど木質燃料を使うこと」（16.0%）の順となっている。

・性別でみると、「自宅や、家具・日用品等にとちぎ材を使うこと」では〈男性〉（41.0%）が〈女性〉（36.7%）より4.3ポイント高くなっている。「森林ボランティアとして森林の手入れを行うこと」では〈男性〉（22.6%）が〈女性〉（18.9%）より3.7ポイント高くなっている。「身近な森林の手入れを行う活動に参加すること」では〈男性〉（31.9%）が〈女性〉（28.5%）より3.4ポイント高くなっている。

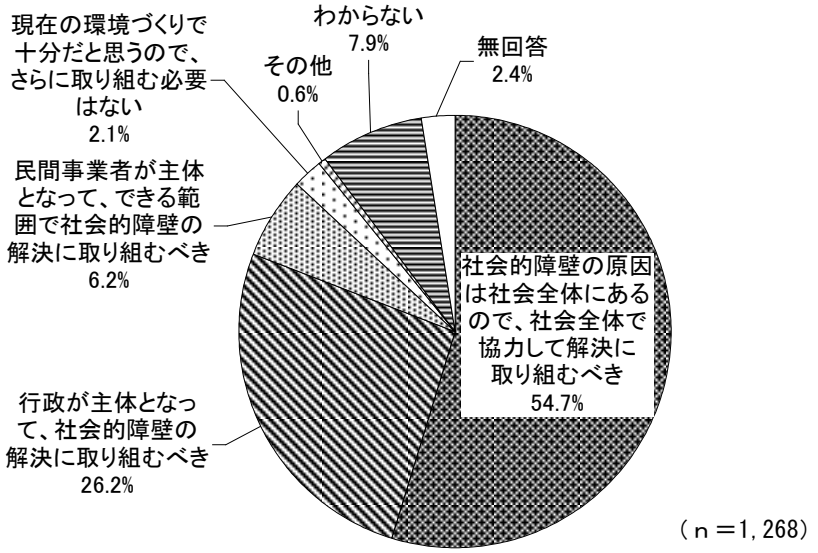
・性／年齢別でみると、「自宅や、家具・日用品等にとちぎ材を使うこと」では〈男性20歳代〉が50.0%、〈女性65～69歳〉が47.5%、〈男性65～69歳〉が46.5%と高くなっている。「身近な森林の手入れを行う活動に参加すること」では〈男性20歳代〉が50.0%と高くなっている。「森林ボランティアとして森林の手入れを行うこと」では〈男性20歳代〉が43.8%と高くなっている。

10　障害者差別の解消について

（１）障害のある方が障害のない方と同じように生活していくための環境づくり

問25　県では、障害の有無にかかわらず、誰もが共に支え合う「共生社会」の実現を目指しています。一方、障害のある方にとって、日常の様々な活動をする上で妨げとなる「社会的障壁」（※）というものがあります。あなたは、障害のある方が障害のない方と同じように生活していくための環境づくりについて、どのようにお考えですか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］

※　社会的障壁とは、車いす利用者にとっての階段など、障害のある方が、学校で学ぶ、仕事をする、遊びに出かけるなどのときに妨げとなる、物やルール、習慣、思い込みなどをいいます。



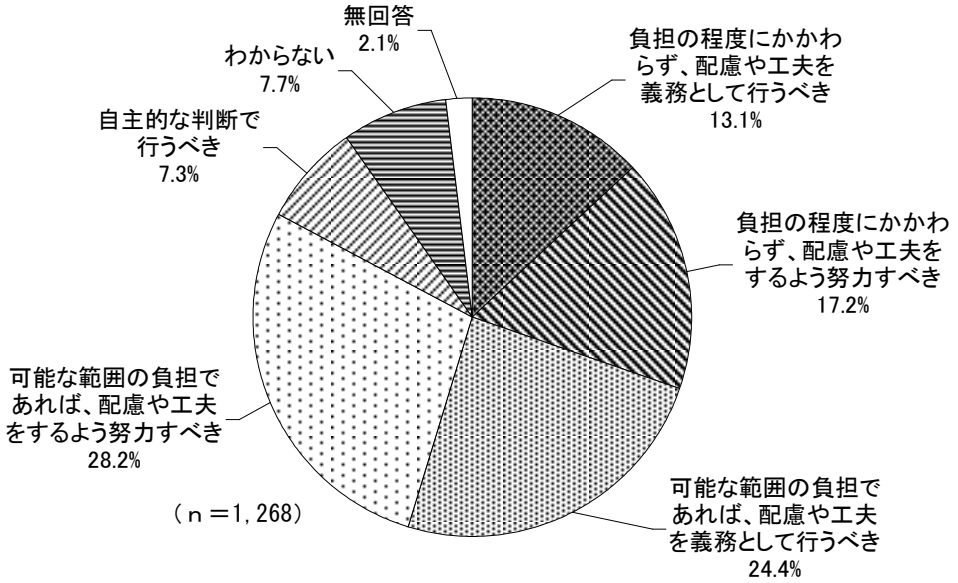
・全体でみると、「社会的障壁の原因は社会全体にあるので、社会全体で協力して解決に取り組むべき」（54.7%）が５割半ばで最も高く、次いで「行政が主体となって、社会的障壁の解決に取り組むべき」（26.2%）、「民間事業者が主体となって、できる範囲で社会的障壁の解決に取り組むべき」（6.2%）の順となっている。

・性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

・性／年齢別でみると、「社会的障壁の原因は社会全体にあるので、社会全体で協力して解決に取り組むべき」では〈女性50歳代〉が65.7%、〈女性20歳代〉が64.4%、〈女性40歳代〉が64.3%と高くなっている。「行政が主体となって、社会的障壁の解決に取り組むべき」では〈男性20歳代〉が34.4%、〈女性60～64歳〉が32.9%、〈男性70歳以上〉が32.7%と高くなっている。

（２）障害のある方が障害のない方と同じように生活していくための事業者の負担

問26　障害のある方が障害のない方と同じように生活していくためには、さまざまな配慮や工夫が必要になります。一方、こうした配慮や工夫を行うには、経済的な負担が伴う場合もあります。あなたは、事業者などがこうした配慮や工夫をどの程度行うべきだと思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫をするよう努力すべき」（28.2%）が３割近くで最も高く、次いで「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を義務として行うべき」（24.4%）、「負担の程度にかかわらず、配慮や工夫をするよう努力すべき」(17.2%)、「負担の程度にかかわらず、配慮や工夫を義務として行うべき」（13.1%）の順となっている。

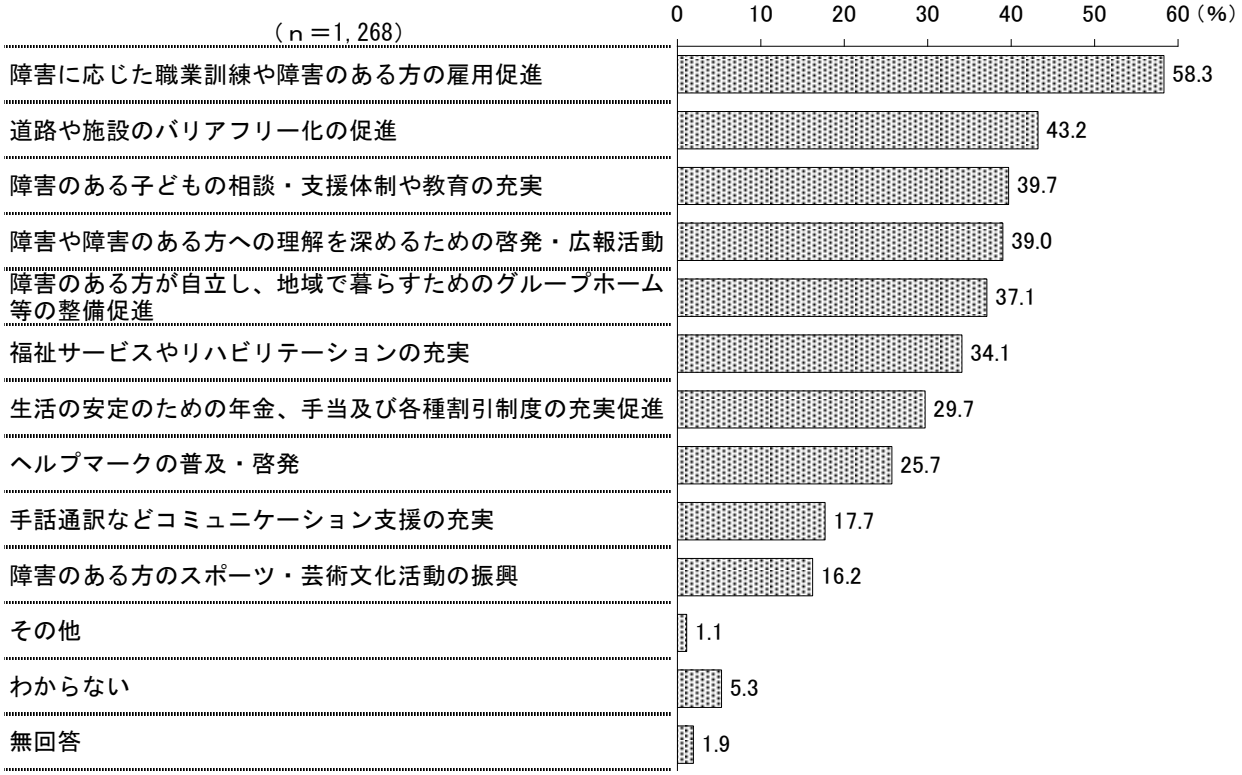
・性別でみると、「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫をするよう努力すべき」では〈女性〉(31.4%)が〈男性〉(25.2%)より6.2ポイント高くなっている。「自主的な判断で行うべき」では〈男性〉(10.0%)が〈女性〉（4.9%）より5.1ポイント高くなっている。「負担の程度にかかわらず、配慮や工夫をするよう努力すべき」では〈女性〉（19.2%）が〈男性〉（14.7%）より4.5ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫をするよう努力すべき」では〈女性20歳代〉が40.0%、〈女性65～69歳〉が37.3%と高くなっている。「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を義務として行うべき」では〈男性60～64歳〉が32.8%、〈女性20歳代〉が31.1%と高くなっている。「負担の程度にかかわらず、配慮や工夫をするよう努力すべき」では〈男性20歳代〉が34.4%と高くなっている。

（３）「共生社会」を実現するための県の取組

問27　あなたは、「共生社会」を実現するために、県はどのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,268］

※　ヘルプマークとは、援助や配慮を必要としていることが外見からは分かりにくい障害のある方が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせ、援助を得やすくするためのマークをいいます。



・全体でみると、「障害に応じた職業訓練や障害のある方の雇用促進」（58.3%）が６割近くで最も高く、次いで「道路や施設のバリアフリー化の促進」（43.2%）、「障害のある子どもの相談・支援体制や教育の充実」（39.7%）、「障害や障害のある方への理解を深めるための啓発・広報活動」（39.0%）、「障害のある方が自立し、地域で暮らすためのグループホーム等の整備促進」（37.1%）の順となっている。

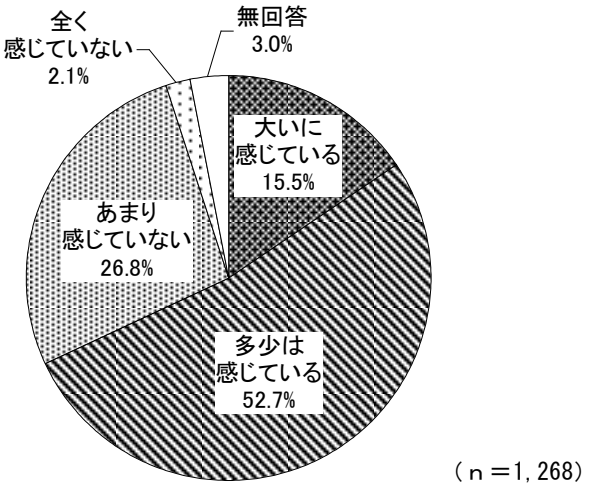
・性別でみると、「ヘルプマークの普及・啓発」では〈女性〉（29.9%）が〈男性〉（21.5%）より8.4ポイント高くなっている。「障害のある子どもの相談・支援体制や教育の充実」では〈女性〉（43.4%）が〈男性〉（36.3%）より7.1ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「障害に応じた職業訓練や障害のある方の雇用促進」では〈男性65～69歳〉が70.4%、〈女性65～69歳〉が69.5%と高くなっている。「障害のある子どもの相談・支援体制や教育の充実」では〈女性65～69歳〉が62.7%、〈女性20歳代〉が62.2%と高くなっている。「障害や障害のある方への理解を深めるための啓発・広報活動」では〈男性20歳代〉が56.3%と高くなっている。「ヘルプマークの普及・啓発」では〈女性20歳代〉が42.2%と高くなっている。

11　食の安全・安心について

（１）食品の安全性に対する不安

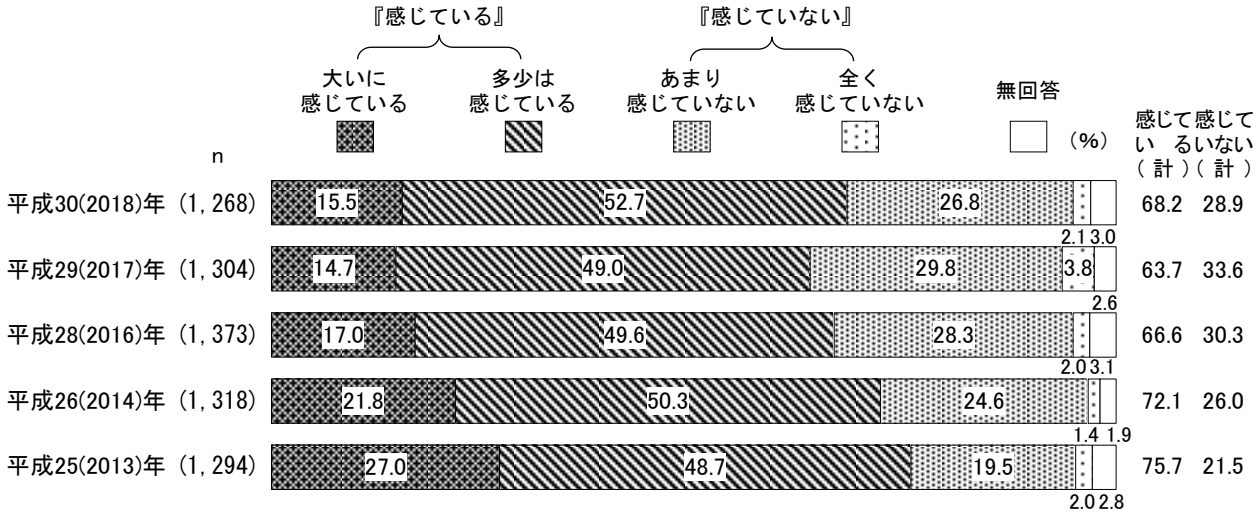
問28　あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「大いに感じている」（15.5%）と「多少は感じている」（52.7%）の２つを合わせた『感じている』（68.2%）は７割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」（26.8%）と「全く感じていない」（2.1%）の２つを合わせた『感じていない』（28.9%）は３割近くとなっている。

・性別でみると、『感じている』では〈女性〉（73.6%）が〈男性〉（63.0%）より10.6ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉（33.9%）が〈女性〉（24.0%）より9.9ポイント高くなっている。

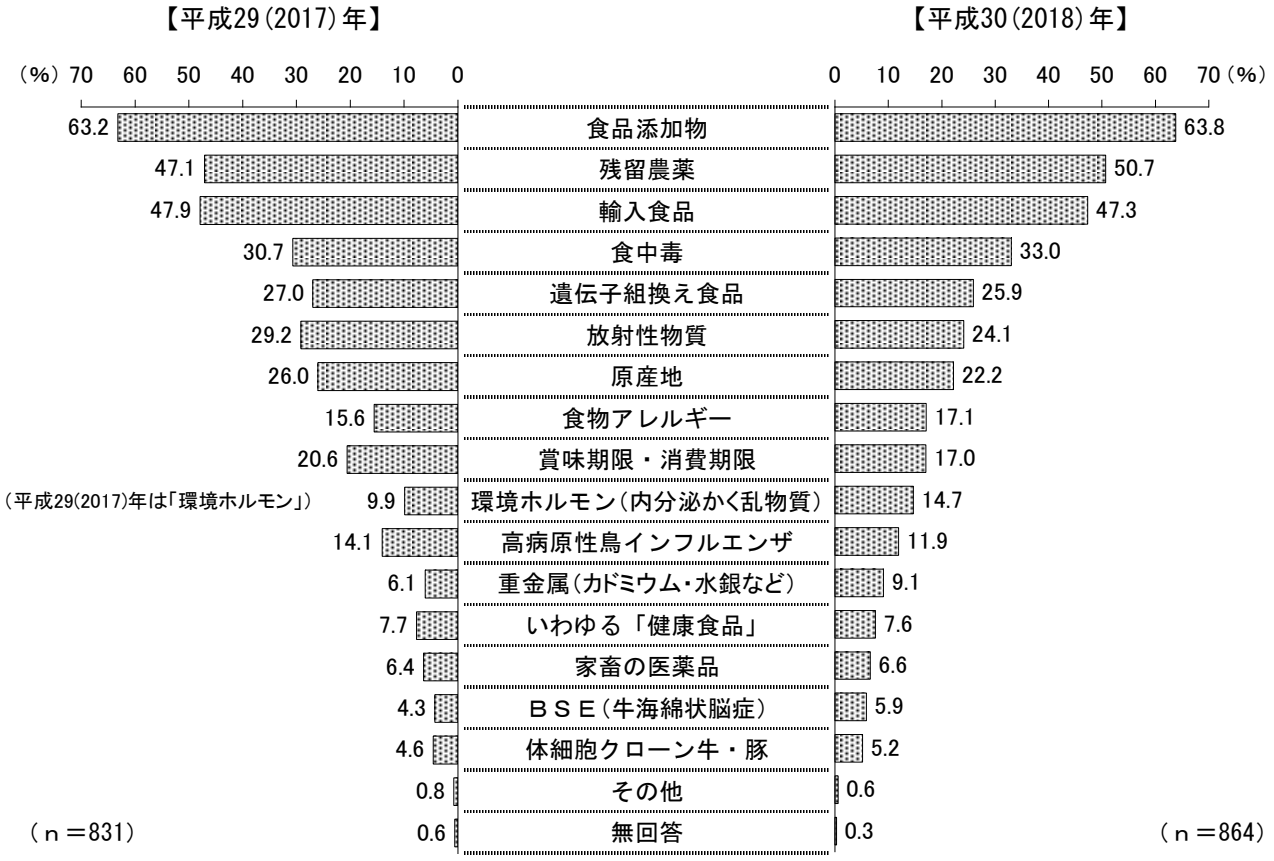
・性／年齢別でみると、『感じている』では〈女性65～69歳〉が86.4%、〈女性60～64歳〉が85.7%、〈女性50歳代〉が78.1%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性30歳代〉が45.9%、〈女性20歳代〉が44.5%、〈女性30歳代〉が40.0%と高くなっている。



・過去の調査結果と比較すると、『感じている』が平成29（2017）年より4.5ポイント増加している。一方、『感じていない』が平成29（2017）年より4.7ポイント減少している。

（１－１）食品の安全性について不安に思うもの

（問28で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください）
問28－１　あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から４つまで選んでください。　［ｎ＝864］



・全体でみると、「食品添加物」（63.8％）が６割を超えて最も高く、次いで「残留農薬」（50.7％）、「輸入食品」（47.3％）、「食中毒」（33.0％）、「遺伝子組換え食品」（25.9％）の順となっている。

・性別でみると、「食品添加物」では〈女性〉（67.1％）が〈男性〉（60.1％）より7.0ポイント高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈男性〉（29.8％）が〈女性〉（23.4％）より6.4ポイント高くなっている。「放射性物質」では〈女性〉（26.7％）が〈男性〉（20.6％）より6.1ポイント高くなっている。

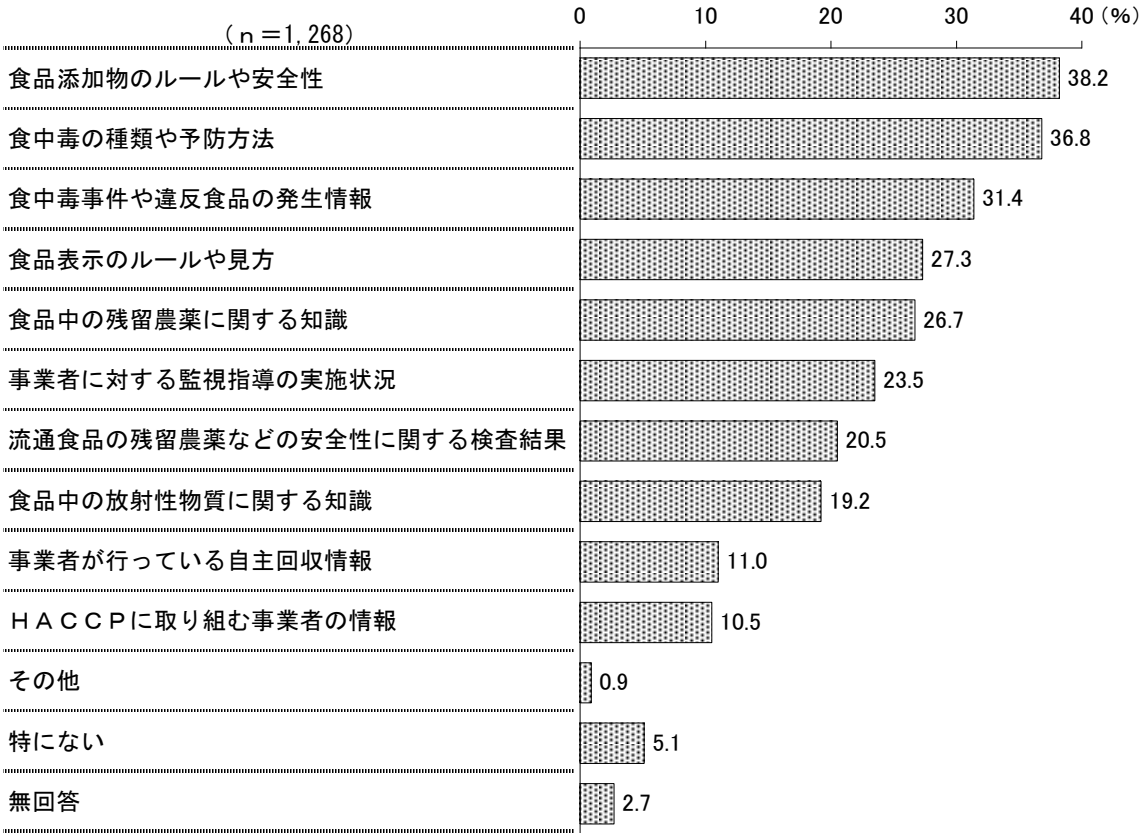
・性／年齢別でみると、「食品添加物」では〈女性60～64歳〉が75.0％、〈男性65～69歳〉が73.5％、〈女性50歳代〉が73.2％と高くなっている。「残留農薬」では〈男性65～69歳〉が65.3％、〈男性60～64歳〉が65.0％と高くなっている。「輸入食品」では〈女性65～69歳〉が58.8％と高くなっている。「食中毒」では〈女性20歳代〉が56.0％と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈男性50歳代〉が39.1％と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、「環境ホルモン（内分泌かく乱物質）」は4.8ポイント、「残留農薬」は3.6ポイント、「重金属（カドミウム・水銀など）」は3.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「放射性物質」は5.1ポイント、「原産地」は3.8ポイント、「賞味期限・消費期限」は3.6ポイント、それぞれ減少している。

（２）県から発信してほしい食の安全・安心に関する情報

問29　県では、食の安全・安心に関する情報の発信に取り組んでいますが、あなたが、県から特に発信してほしい内容は何ですか。次の中から３つまで選んでください。［ｎ＝1,268］

※　ＨＡＣＣＰ（ハサップ）とは、食品の安全性を確保するための衛生管理の手法で、国際標準となっています。



・全体でみると、「食品添加物のルールや安全性」（38.2%）と「食中毒の種類や予防方法」（36.8%）がともに４割近くで高く、次いで「食中毒事件や違反食品の発生情報」（31.4%）、「食品表示のルールや見方」（27.3%）、「食品中の残留農薬に関する知識」（26.7%）の順となっている。

・性別でみると、「食品添加物のルールや安全性」では〈女性〉（41.8%）が〈男性〉（34.8%）より7.0ポイント高くなっている。「食品中の残留農薬に関する知識」では〈女性〉（29.4%）が〈男性〉（24.0%）より5.4ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「食品添加物のルールや安全性」では〈女性60～64歳〉が51.4%、〈女性65～69歳〉が49.2%と高くなっている。「食中毒の種類や予防方法」では〈女性20歳代〉が51.1%と高くなっている。「食中毒事件や違反食品の発生情報」では〈女性30歳代〉が42.5%と高くなっている。

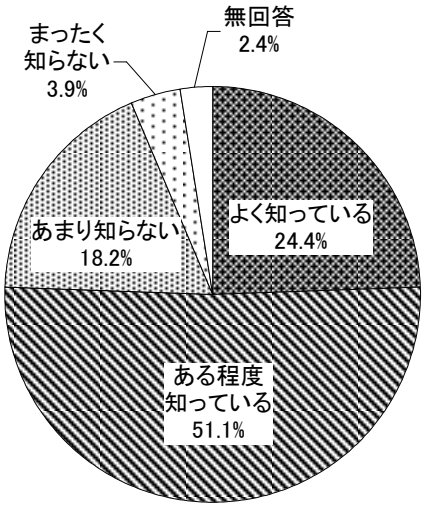
12　食品ロスの削減について

（１）食品ロスの問題の認知度

問30　あなたは、「食品ロス」（※）の問題を知っていますか。次の中から１つ選んでください。

［ｎ＝1,268］

※　食品ロスとは、食べ残しや賞味期限切れの食品など、本来食べられる部分が捨てられたものです。



（ｎ＝1,268）

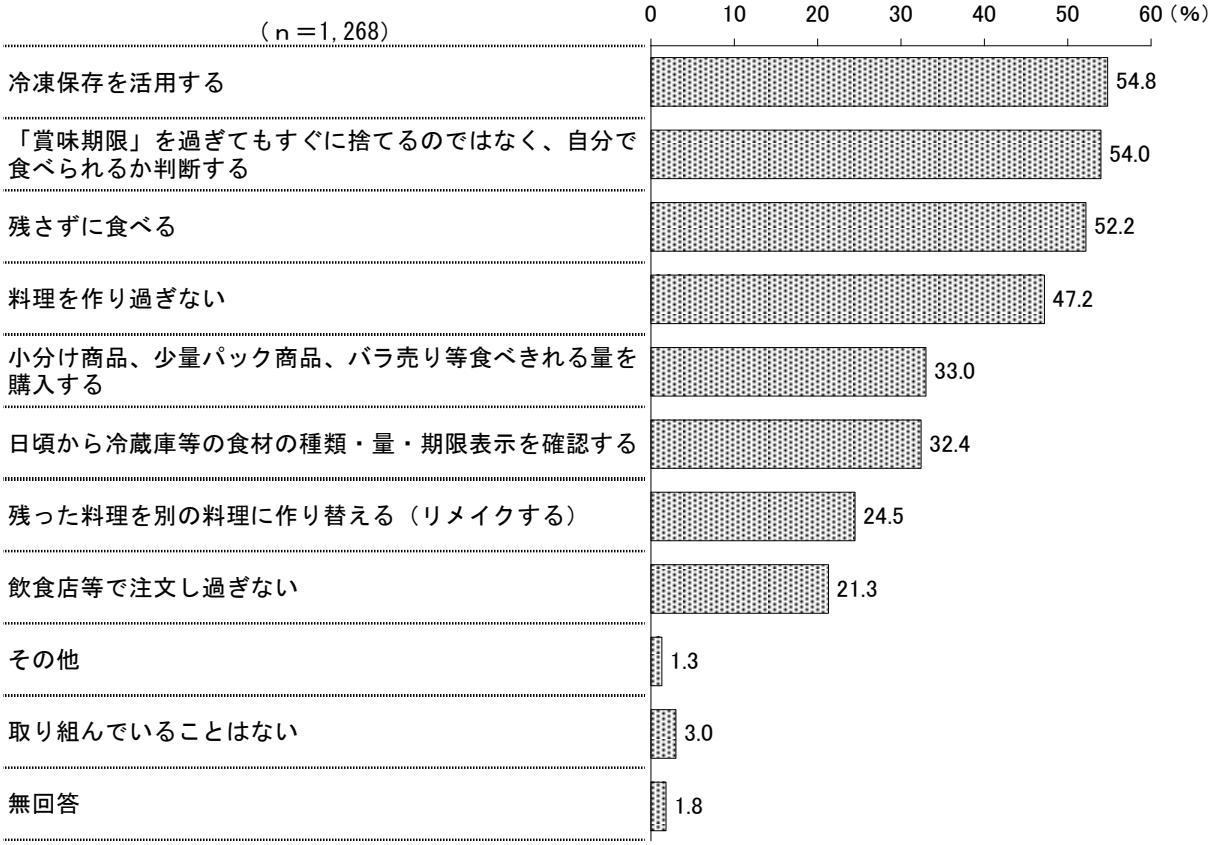
・全体でみると、「よく知っている」（24.4%）と「ある程度知っている」（51.1%）の２つを合わせた『知っている』（75.5%）は７割半ばとなっている。一方、「あまり知らない」（18.2%）と「まったく知らない」（3.9%）の２つを合わせた『知らない』（22.1%）は２割を超えている。

・性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

・性／年齢別でみると、『知っている』では〈女性65～69歳〉が89.8%、〈女性60～64歳〉が88.6%と高くなっている。一方、『知らない』では〈女性20歳代〉が53.3%と高くなっている。

（２）食品ロスを発生させないために現在取り組んでいること

問31　あなたは、食品ロスを発生させない（食品を無駄にしない）ために現在取り組んでいることがありますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,268］



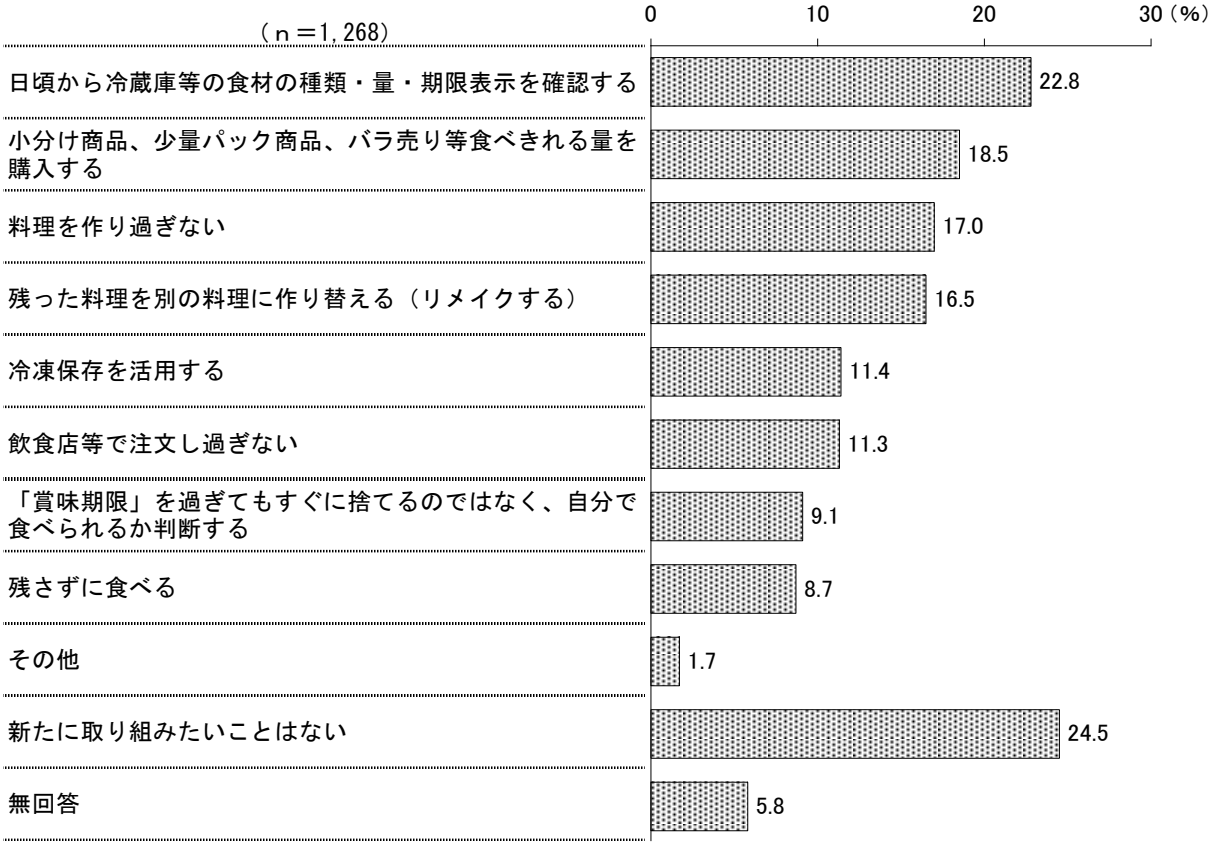
・全体でみると、「冷凍保存を活用する」(54.8%) と「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(54.0%) がともに５割半ばで高く、次いで「残さずに食べる」(52.2%)、「料理を作り過ぎない」(47.2%)、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する」(33.0%)、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」(32.4%) の順となっている。

・性別でみると、多くの項目で〈女性〉の方が〈男性〉より高くなっており、特に「冷凍保存を活用する」で18.5ポイント、「残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）」で11.9ポイント高くなっている。「残さずに食べる」では〈男性〉(56.1%) が〈女性〉(49.7%) より6.4ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「冷凍保存を活用する」では〈女性50歳代〉が69.5%、〈女性30歳代〉が68.8%、〈女性70歳以上〉が68.6%と高くなっている。「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」では〈女性50歳代〉が66.7%と高くなっている。「残さずに食べる」では〈男性20歳代〉が68.8%、〈男性40歳代〉と〈女性20歳代〉がともに66.7%と高くなっている。「飲食店等で注文し過ぎない」では〈女性20歳代〉が44.4%と高くなっている。

（３）食品ロスを発生させないために今後新たに取り組みたいこと

問32　問31で選択した項目以外で、食品ロスを発生させない（食品を無駄にしない）ために、今後あなたが新たに取り組んでみたいと思うことはありますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」（22.8%）が２割を超えて最も高く、次いで「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する」（18.5%）、「料理を作り過ぎない」（17.0%）、「残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）」（16.5%）、「冷凍保存を活用する」（11.4%）、「飲食店等で注文し過ぎない」（11.3%）の順となっている。

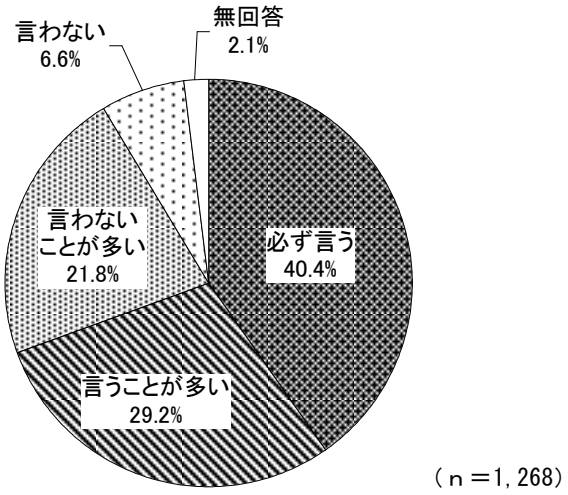
・性別でみると、「残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）」では〈女性〉（20.6%）が〈男性〉（12.2%）より8.4ポイント高くなっている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈女性〉（25.5%）が〈男性〉（20.1%）より5.4ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈女性65～69歳〉が35.6%、〈女性50歳代〉が35.2%と高くなっている。「残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）」では〈女性20歳代〉が28.9%と高くなっている。「飲食店等で注文し過ぎない」では〈女性30歳代〉が26.3%と高くなっている。

13　食に関する意識と実践について

（１）食事の際「いただきます」を言っているか

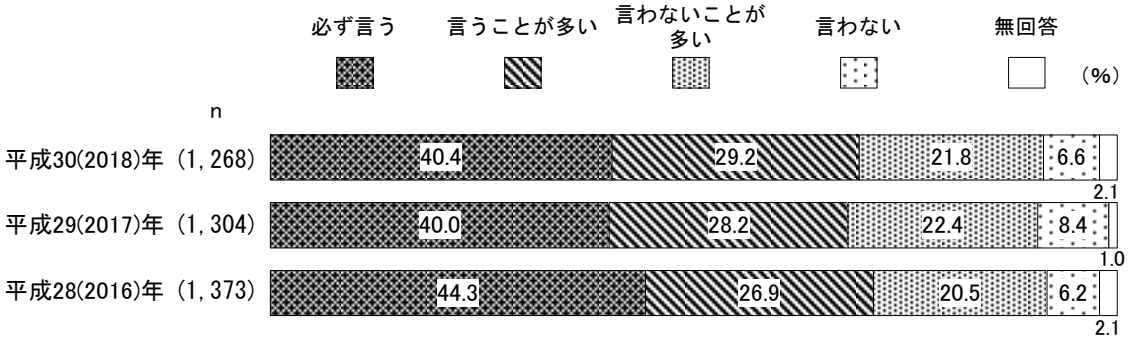
問33　あなたは、食事の際「いただきます」を言いますか。次の中から１つ選んでください。
［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「必ず言う」（40.4%）は４割となっている。「言うことが多い」（29.2%）はほぼ３割で、「言わないことが多い」（21.8%）は２割を超えている。

・性別でみると、「必ず言う」では〈女性〉（49.7%）が〈男性〉（30.6%）より19.1ポイント高くなっている。「言うことが多い」では〈男性〉（31.4%）が〈女性〉（27.3%）より4.1ポイント高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性〉（27.5%）が〈女性〉（16.8%）より10.7ポイント高くなっている。「言わない」では〈男性〉（9.1%）が〈女性〉（4.4%）より4.7ポイント高くなっている。

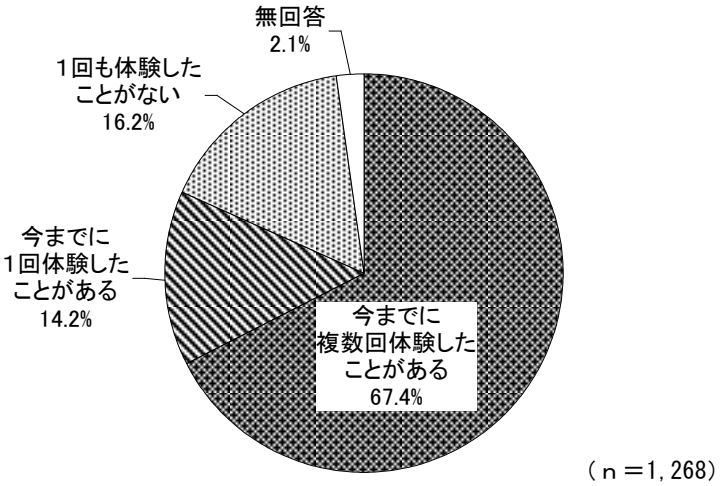
・性／年齢別でみると、「必ず言う」では〈女性20歳代〉が60.0%、〈女性40歳代〉が58.0%と高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性65～69歳〉が36.6%、〈男性60～64歳〉が35.8%と高くなっている。



・過去の調査結果と比較すると、平成29（2017）年と比べて大きな傾向の違いはみられない。

（２）農業体験をした経験

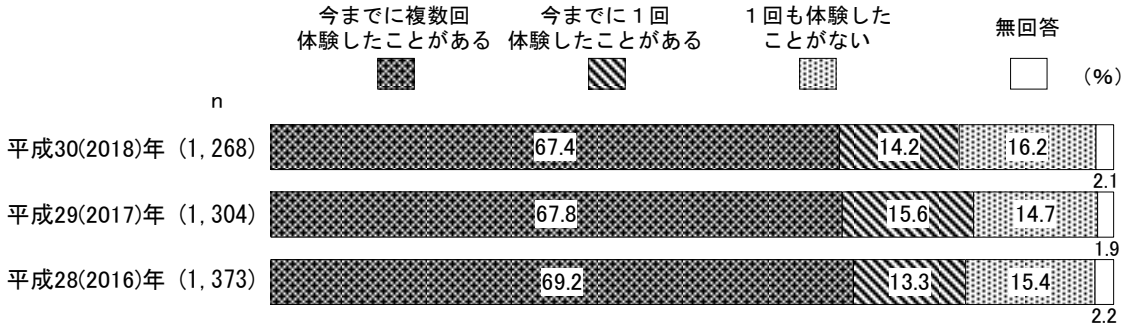
問34　あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなどの農業体験をしたことがありますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「今までに複数回体験したことがある」（67.4%）は７割近くと高くなっている。「今までに１回体験したことがある」（14.2%）と「１回も体験したことがない」（16.2%）はともに１割半ばとなっている。

・性別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性〉（69.1%）が〈男性〉（66.0%）より3.1ポイント高くなっている。「１回も体験したことがない」では〈男性〉（18.1%）が〈女性〉（14.8%）より3.3ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性30歳代〉が85.0%と高くなっている。「１回も体験したことがない」では〈女性70歳以上〉が25.0%と高くなっている。

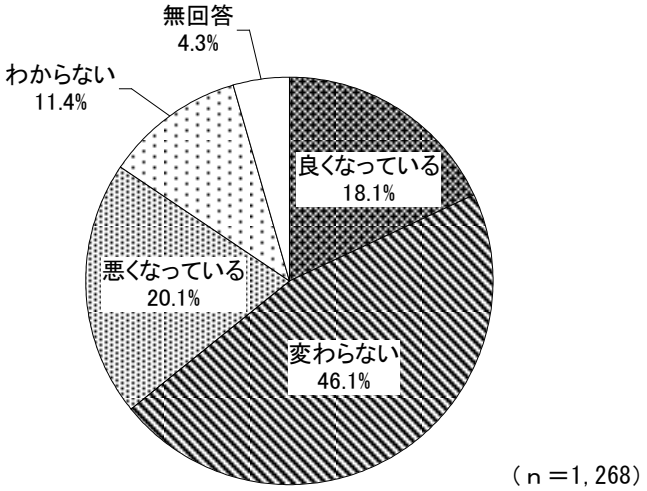


・過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

14　栃木県の景観づくりについて

（１）身近な景観の変化

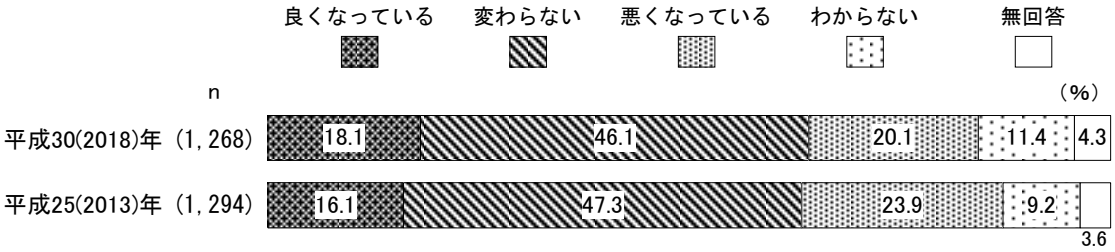
問35　あなたの身近な景観は、どのように変化していると感じていますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「良くなっている」（18.1%）は２割近くとなっている。「変わらない」（46.1%）は４割半ばで、「悪くなっている」（20.1%）は２割となっている。

・性別でみると、「悪くなっている」では〈男性〉（22.5%）が〈女性〉（18.3%）より4.2ポイント高くなっている。

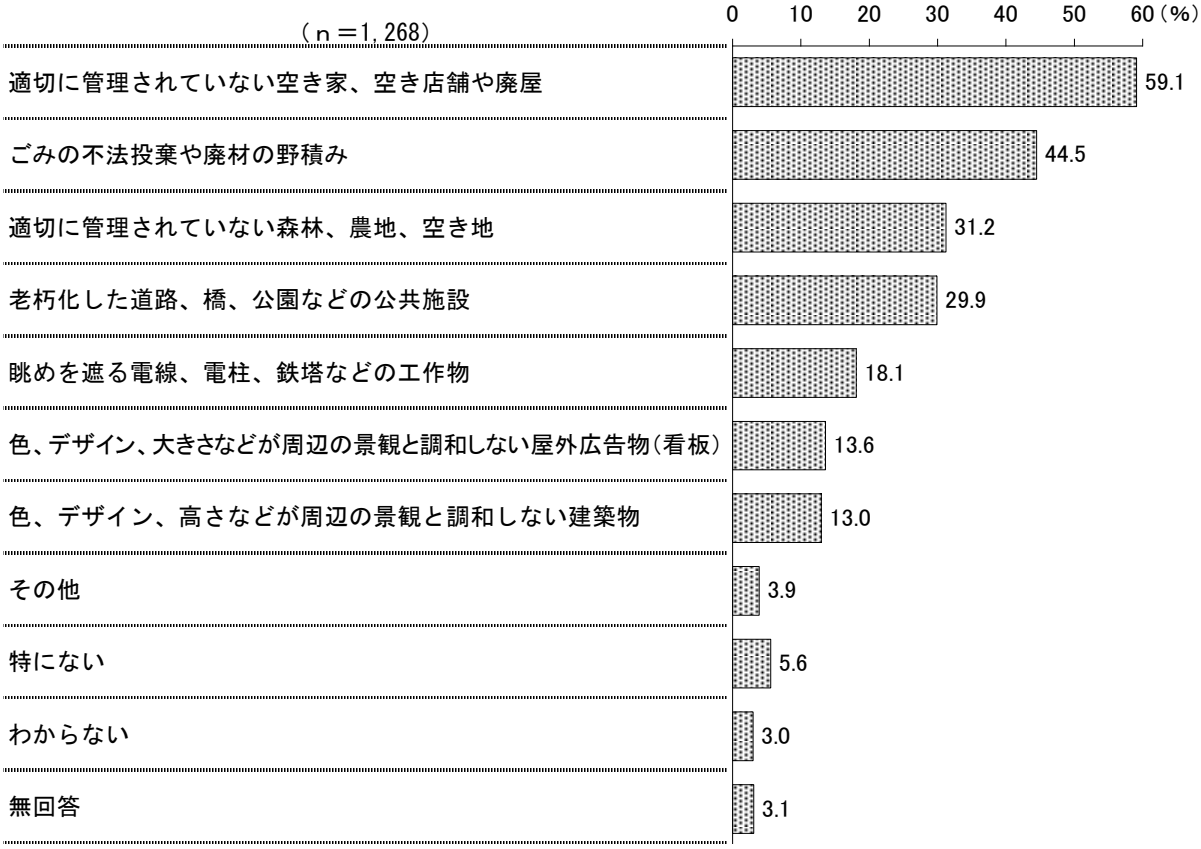
・性／年齢別でみると、「良くなっている」では〈男性20歳代〉が34.4%、〈女性70歳以上〉が27.3%と高くなっている。「変わらない」では〈男性60～64歳〉が59.7%、〈男性40歳代〉が54.8%と高くなっている。「悪くなっている」では〈女性50歳代〉が27.6%と高くなっている。



・平成25（2013）年の調査結果と比較すると、「良くなっている」が2.0ポイント増加している。一方、「悪くなっている」が3.8ポイント減少している。

（２）景観を損ねていると思うもの

問36　あなたは、景観を損ねているものは、どのようなものだと思いますか。次の中から３つまで選んでください。　［ｎ＝1,268］



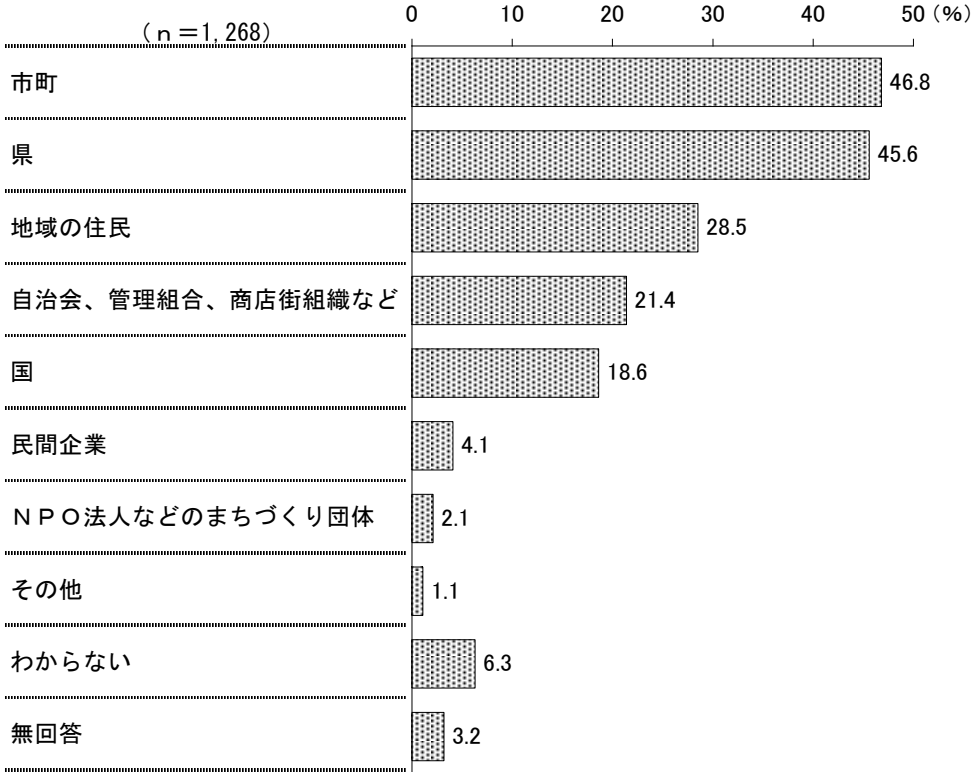
・全体でみると、「適切に管理されていない空き家、空き店舗や廃屋」（59.1%）がほぼ６割で最も高く、次いで「ごみの不法投棄や廃材の野積み」（44.5%）、「適切に管理されていない森林、農地、空き地」（31.2%）、「老朽化した道路、橋、公園などの公共施設」（29.9%）、「眺めを遮る電線、電柱、鉄塔などの工作物」（18.1%）の順となっている。

・性別でみると、「適切に管理されていない空き家、空き店舗や廃屋」では〈女性〉（61.1%）が〈男性〉（57.9%）より3.2ポイント高くなっている。「眺めを遮る電線、電柱、鉄塔などの工作物」では〈男性〉（19.8%）が〈女性〉（16.8%）より3.0ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「適切に管理されていない空き家、空き店舗や廃屋」では〈男性60～64歳〉が71.6%、〈女性50歳代〉が70.5%と高くなっている。「ごみの不法投棄や廃材の野積み」では〈男性65～69歳〉が56.3%と高くなっている。「老朽化した道路、橋、公園などの公共施設」では〈男性20歳代〉が46.9%、〈女性30歳代〉が45.0%と高くなっている。

（３）景観を良くするために取り組むべき主体

問37　あなたは、景観を良くするために、誰が主体的に取り組むべきだと思いますか。次の中から２つまで選んでください。　［ｎ＝1,268］



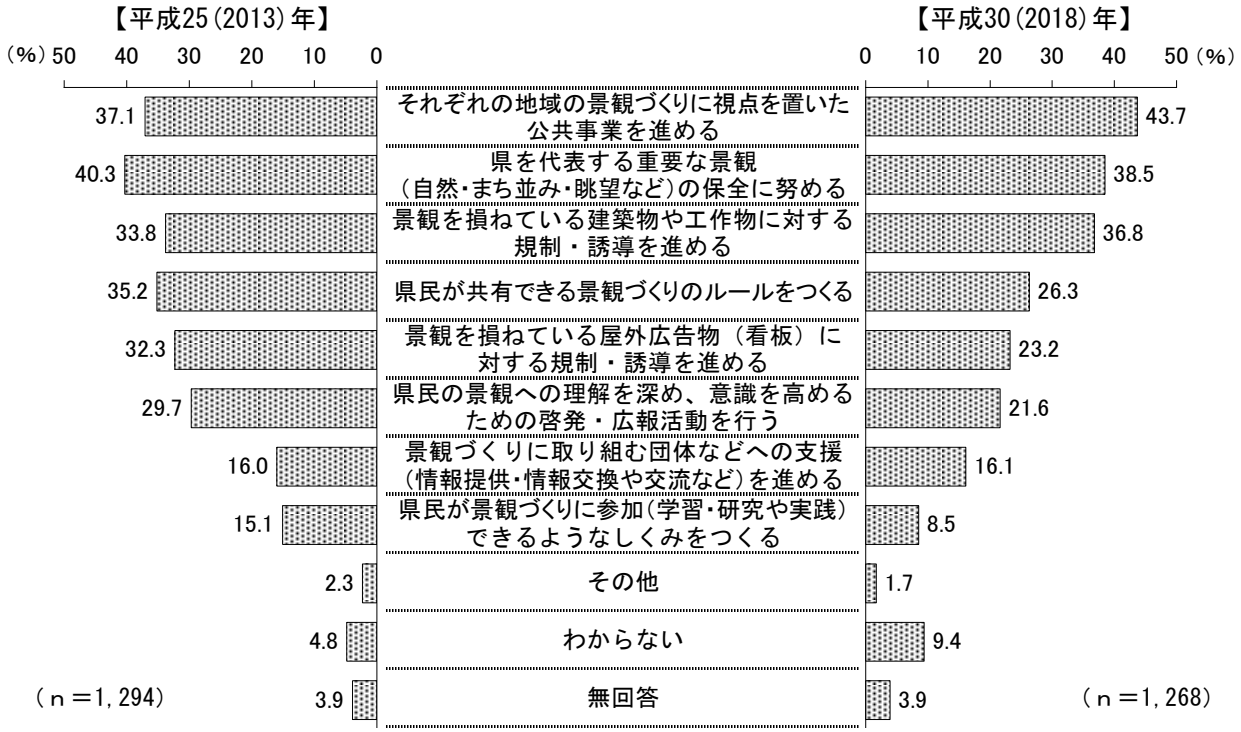
・全体でみると、「市町」(46.8%) が５割近くで最も高く、次いで「県」(45.6%)、「地域の住民」(28.5%)、「自治会、管理組合、商店街組織など」(21.4%)、「国」(18.6%) の順となっている。

・性別でみると、「民間企業」では〈男性〉(6.1%) が〈女性〉(2.4%) より3.7ポイント高くなっている。「地域の住民」では〈男性〉(30.2%) が〈女性〉(27.1%) より3.1ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「県」では〈男性30歳代〉が61.1%と高くなっている。「地域の住民」では〈男性65～69歳〉が42.3%、〈女性65～69歳〉が39.0%と高くなっている。「自治会、管理組合、商店街組織など」では〈男性20歳代〉が34.4%と高くなっている。

（４）景観づくりを進めていくための行政の取組

問38　あなたは、県内の景観づくりを進めていくために、行政としては特に何に力を入れるべきだと思いますか。次の中から３つまで選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「それぞれの地域の景観づくりに視点を置いた公共事業を進める」（43.7%）が４割を超えて最も高く、次いで「県を代表する重要な景観（自然・まち並み・眺望など）の保全に努める」（38.5%）、「景観を損ねている建築物や工作物に対する規制・誘導を進める」（36.8%）、「県民が共有できる景観づくりのルールをつくる」（26.3%）、「景観を損ねている屋外広告物（看板）に対する規制・誘導を進める」（23.2%）の順となっている。

・性別でみると、「景観を損ねている建築物や工作物に対する規制・誘導を進める」では〈男性〉（40.7%）が〈女性〉（34.1%）より6.6ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「それぞれの地域の景観づくりに視点を置いた公共事業を進める」では〈女性60～64歳〉が52.9%と高くなっている。「県を代表する重要な景観（自然・まち並み・眺望など）の保全に努める」では〈男性20歳代〉が53.1%と高くなっている。「景観を損ねている建築物や工作物に対する規制・誘導を進める」では〈男性60～64歳〉が50.7%と高くなっている。

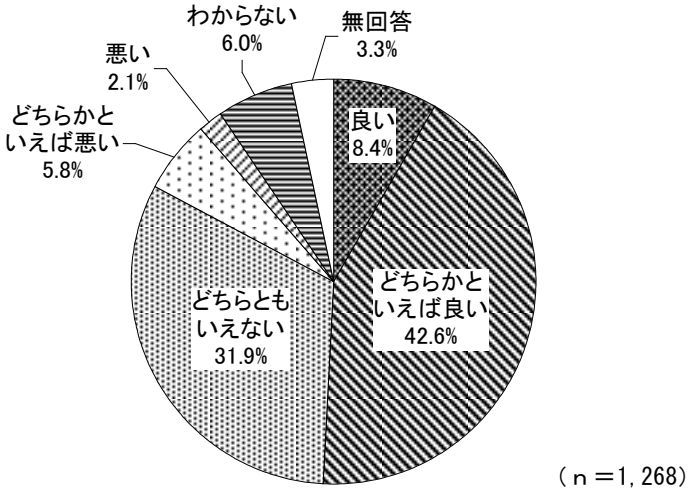
・平成25（2013）年の調査結果と比較すると、「それぞれの地域の景観づくりに視点を置いた公共事業を進める」が6.6ポイント増加している。一方、「景観を損ねている屋外広告物（看板）に対する規制・誘導を進める」が9.1ポイント、「県民が共有できる景観づくりのルールをつくる」が8.9ポイント、「県民の景観への理解を深め、意識を高めるための啓発・広報活動を行う」が8.1ポイント、「県民が景観づくりに参加（学習・研究や実践）できるようなしくみをつくる」が6.6ポイント、それぞれ減少している。

15　犯罪と治安対策について

（１）県内の治安状況

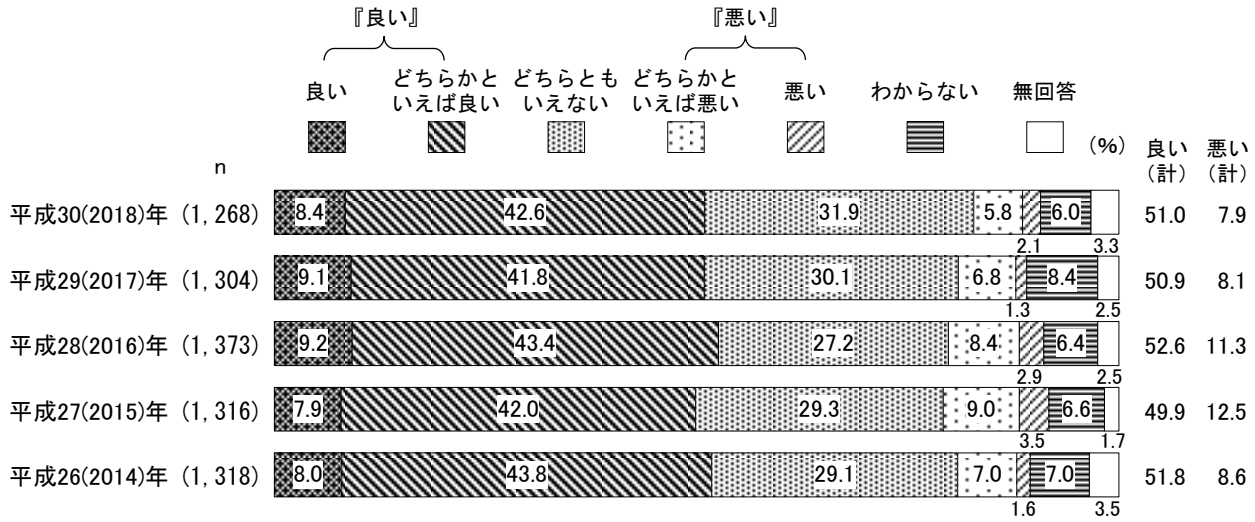
問39　あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から１つ選んでください。

［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「良い」(8.4%) と「どちらかといえば良い」(42.6%) の２つを合わせた『良い』(51.0%) は５割を超えている。一方、「どちらかといえば悪い」（5.8%）と「悪い」（2.1%）の２つを合わせた『悪い』（7.9%）は１割近くとなっている。また、「どちらともいえない」（31.9%）は３割を超えている。

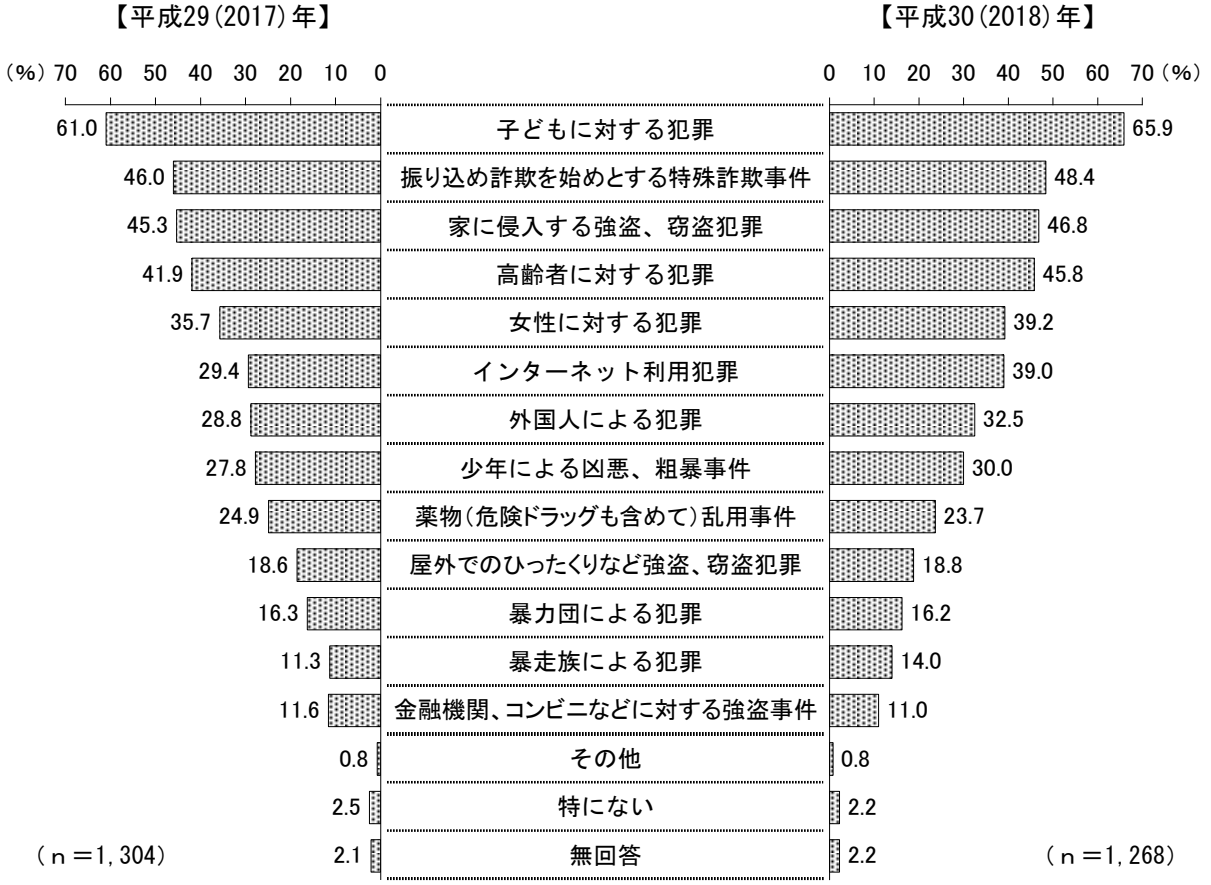
・性別でみると、『良い』では〈男性〉（54.4%）が〈女性〉（49.4%）より5.0ポイント高くなっている。
・性／年齢別でみると、『良い』では〈男性20歳代〉が71.9%、〈男性65～69歳〉が62.0%と高くなっている。一方、『悪い』では〈女性20歳代〉が15.5%と高くなっている。



・過去の調査結果と比較すると、平成29（2017）年と比べて大きな傾向の違いはみられない。

（２）不安を感じる犯罪

問40　あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。
［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「子どもに対する犯罪」（65.9％）が６割半ばで最も高く、次いで「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」（48.4％）、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」（46.8％）、「高齢者に対する犯罪」（45.8％）、「女性に対する犯罪」（39.2％）、「インターネット利用犯罪」（39.0％）の順となっている。

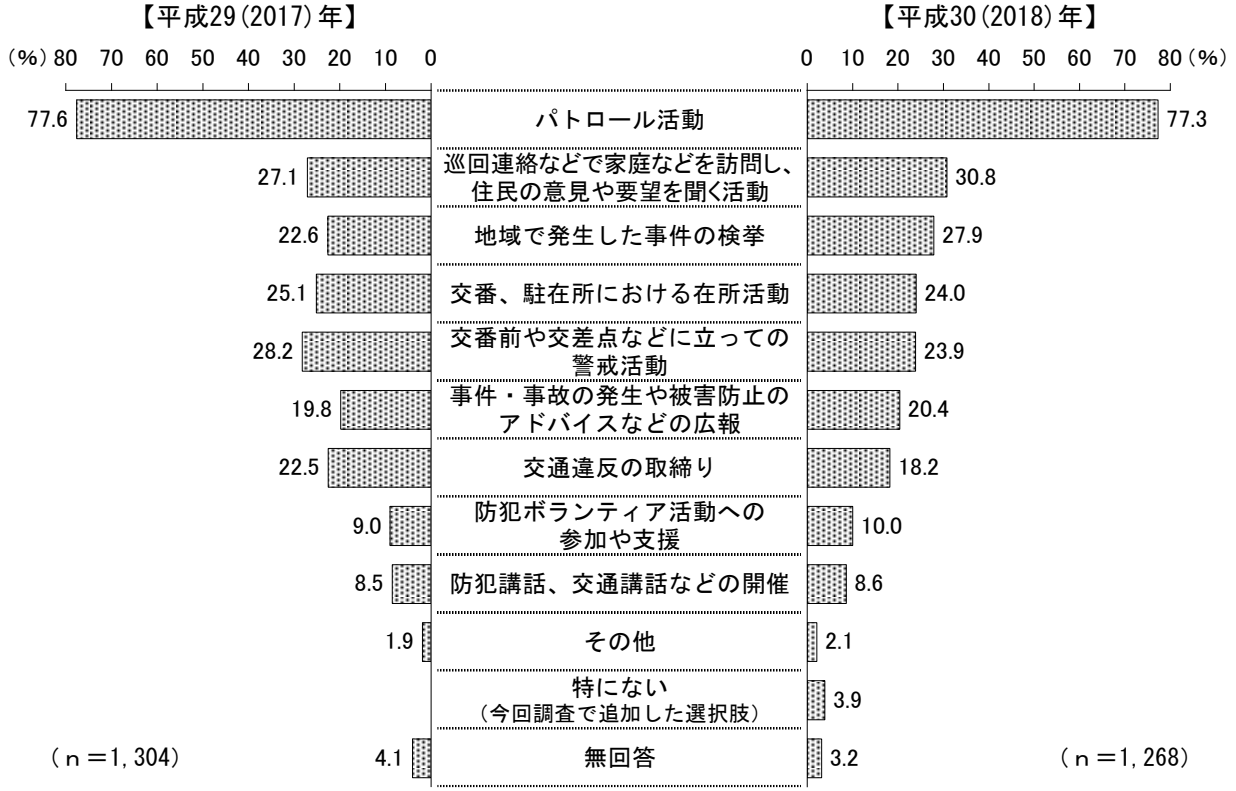
・性別でみると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉（45.7％）が〈男性〉（33.1％）より12.6ポイント高くなっている。「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉（52.4％）が〈男性〉（42.2％）より10.2ポイント高くなっている。「子どもに対する犯罪」では〈女性〉（71.6％）が〈男性〉（61.5％）より10.1ポイント高くなっている。「屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉（22.9％）が〈男性〉（14.9％）より8.0ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が90.0％、〈女性40歳代〉が82.1％と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈女性65～69歳〉が78.0％と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が64.0％と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が66.7％、〈女性30歳代〉が60.0％と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、「インターネット利用犯罪」が9.6ポイント、「子どもに対する犯罪」が4.9ポイント、「高齢者に対する犯罪」が3.9ポイント、「外国人による犯罪」が3.7ポイント、「女性に対する犯罪」が3.5ポイント、それぞれ減少している。

（３）交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問41　あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「パトロール活動」（77.3%）が８割近くで最も高く、次いで「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」（30.8%）、「地域で発生した事件の検挙」（27.9%）、「交番、駐在所における在所活動」（24.0%）、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」（23.9%）の順となっている。

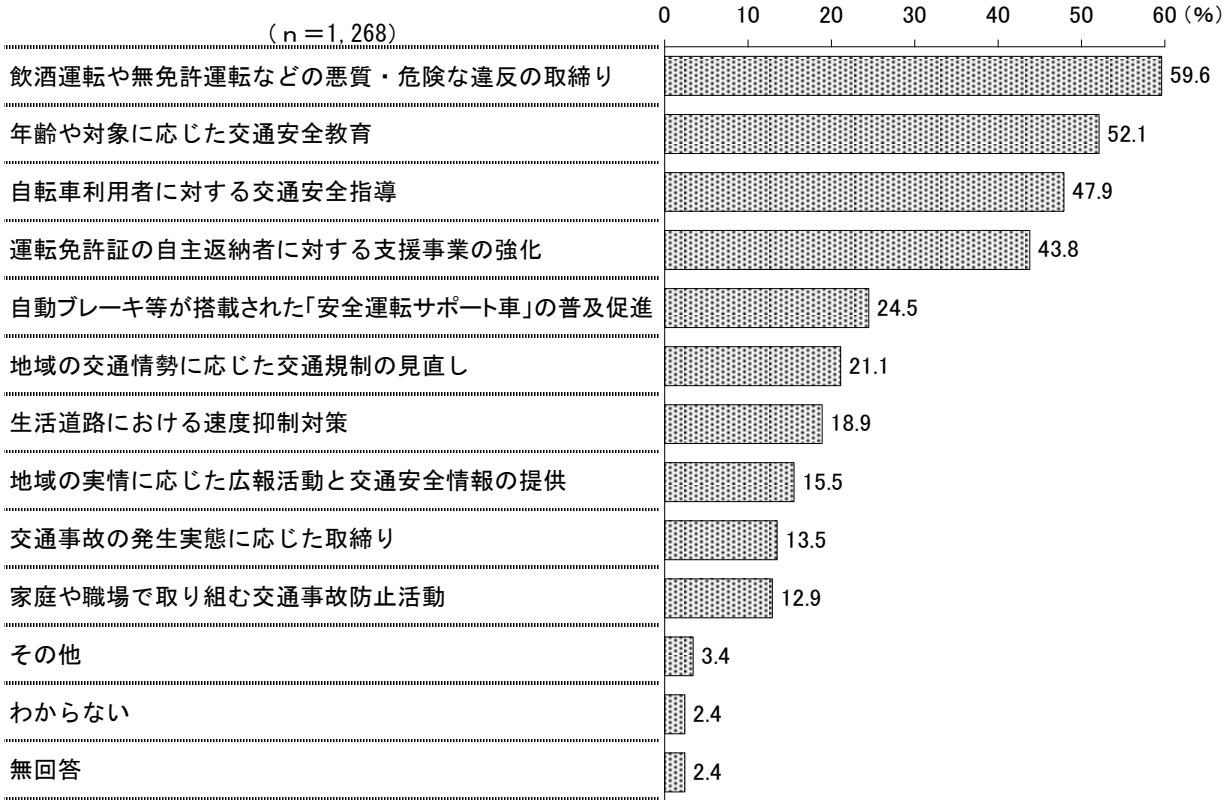
・性別でみると、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」では〈男性〉（27.7%）が〈女性〉（21.2%）より6.5ポイント高くなっている。「交番、駐在所における在所活動」では〈男性〉（27.0%）が〈女性〉（22.0%）より5.0ポイント高くなっている。「パトロール活動」では〈女性〉（80.8%）が〈男性〉（76.0%）より4.8ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性70歳以上〉が45.6%、〈女性70歳以上〉が43.0%と高くなっている。「地域で発生した事件の検挙」では〈女性30歳代〉が45.0%、〈女性40歳代〉が43.8%、〈男性30歳代〉が43.1%と高くなっている。「事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報」では〈女性65～69歳〉が35.6%と高くなっている。

・平成29（2017）年の調査結果と比較すると、「地域で発生した事件の検挙」が5.3ポイント、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」が3.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」と「交通違反の取締り」がともに4.3ポイント減少している。

（４）交通事故を抑止するための対策

問42　交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,268］



・全体でみると、「飲酒運転や無免許運転などの悪質・危険な違反の取締り」（59.6％）が６割で最も高く、次いで「年齢や対象に応じた交通安全教育」（52.1％）、「自転車利用者に対する交通安全指導」（47.9％）、「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」（43.8％）、「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」（24.5％）の順となっている。

・性別でみると、「飲酒運転や無免許運転などの悪質・危険な違反の取締り」では〈女性〉（64.8％）が〈男性〉（55.7％）より9.1ポイント高くなっている。「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈女性〉（55.9％）が〈男性〉（49.7％）より6.2ポイント高くなっている。「地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し」では〈男性〉（24.5％）が〈女性〉（18.6％）より5.9ポイント高くなっている。

・性／年齢別でみると、「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈女性60～64歳〉が68.6％と高くなっている。「自転車利用者に対する交通安全指導」では〈女性65～69歳〉が62.7％と高くなっている。「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」では〈女性60～64歳〉が60.0％と高くなっている。「生活道路における速度抑制対策」では〈女性70歳以上〉が32.6％と高くなっている。

VERY GOOD LOCAL

とちぎ

平成30（2018）年度

栃　木　県　政　世　論　調　査

調 査 報 告 書（概 要 版）

平成30（2018）年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田１－１－20
電話（028）623－2158